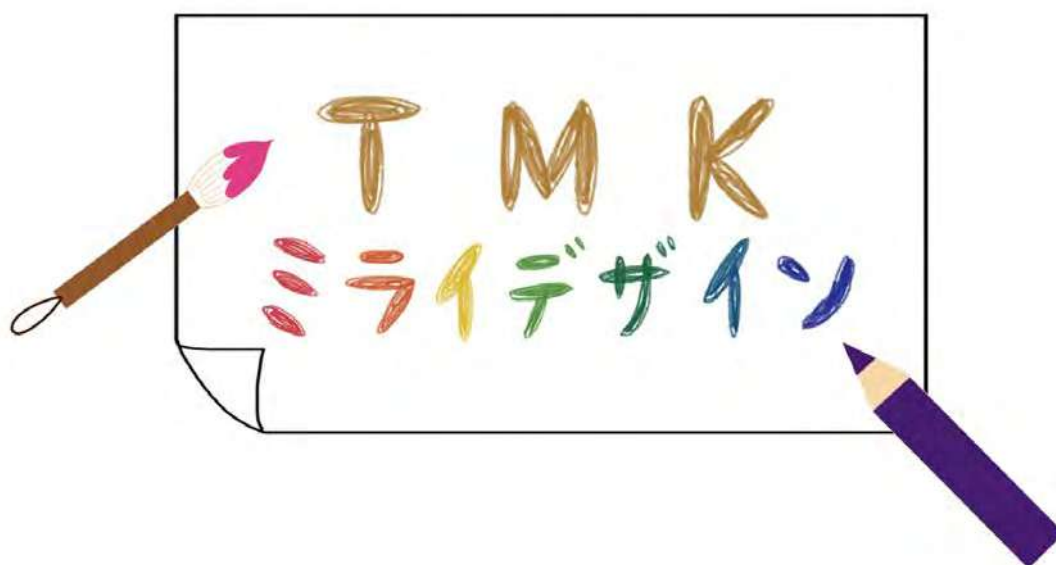


TMK ミライデザインプロジェクト

玉城町 令和5年度 第6号

玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務報告書



皇學館大学教育開発センター 准教授 池山敦

令和6年3月

はじめに

幸いにも年を重ねて継続させていただいている本事業の報告書を毎年書くことが、こうして世界情勢をふりかえることになっている。上の2つの囲みは近年の本報告書の「はじめに」の書き出しである。思えば、新型コロナウイルス感染症は感染拡大から丸3年となり、この5月には5類への取り扱いの変更となり、筆者の勤務校においても卒業式などがコロナ前に近い形で実施されることがこの度決定された。ロシア・ウクライナ情勢については、全く出口が見えず、1年以上に渡って戦争状態が続いている。その間に、隣国のミサイル発射は止まらず、というより頻度が増し、台湾海峡の有事も危惧されている。皮肉な見方をすれば、世界はいつもこのように「不安定状態に安定」しているのかもしれない。

(令和4年報告書「はじめに」より)

毎年、この報告書の「はじめに」を書くときに、過去数年を振り返ることが通例になっている。令和2年、3年とコロナウイルスについて、そして昨年はロシア・ウクライナ情勢について書いていたようだ。一年前の、自身の思考を振り返ることは、これまで報告者に時間を旅する装置に乗るような感情を呼び起こさせてきた。

世界情勢が「不安定な状態に安定している」と書いた令和4年には、一方で変わらないものもあるとして、「地域社会を支える地縁に基づくシステムは、変わることを拒否するかのよう前例を踏襲し続ける」と一年前に書いている。その、住民の暮らしを「よいもの」にするための努力を継続する必要がある、ということ述べた。

今年一年の本研究を通して、今一度思いを新たにすることがある。それは、円環を閉じるように、報告者自身の原初的な研究テーマに戻るものであった。「自己決定を支援する」というテーマを本研究のスタート時に掲げ、やはり様々なことを調査し、実践してきた中で今一度この部分が根幹であり、中心であると確信している。

「決める」ためには、「知り」、「考え」なければならない。住民はいかに自分たちの取り巻く状況を知るのか。そして、衆愚にならぬように、考えることができるのか。化学の世界には自らを変質させることなく、反応を促進する「触媒」という概念がある。支援者、研究者はいかに地域住民の自己決定における「触媒」となりえるのか。そんなことを考える。

本年も本研究を終えることができたことを、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。
ありがとうございました。

令和6年3月
皇學館大学教育開発センター
准教授 池山敦

(1) プロジェクトの背景（岡村地区、下田辺地区、昼田地区）

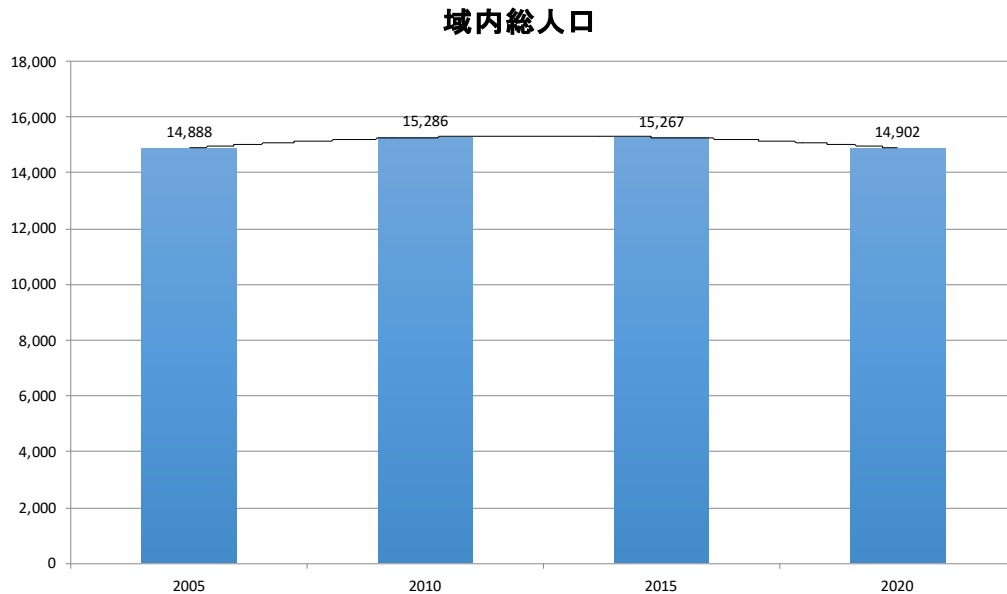


図 1 玉城町総人口推移（国勢調査より、報告者作成）

玉城町は三重県の中ほどに位置する人口約1万5千人の町であり、昭和の合併で1町（田丸町）3村（東外城田村、下外城田村、有田村）が合併して現在の姿となっている。その1町3村はそのまま小学校区として現存しており、町を大きく4つに分けるエリアとして町民に現在も認識されている。平成の時代においては合併を行わず、単独で現在に至っている。農業が盛んな町であり、田丸城址をいただく歴史豊かな町でもある。

玉城町の鉄道の玄関口として、JR参宮線田丸駅がある。大正時代に建築されたという駅舎はかつて有名映画監督のシーンにも使われたといわれる。老朽化と耐震強度不足から駅管理者であるJR東海は取り壊しの方針を決めた。その場合ローカル線の駅舎は非常に簡便なものに作り変えられる傾向がある。地域住民と玉城町では様々な協議をした結果、駅舎を古き佇まいを残した、現代的な建築で「住民の交流施設」として建て替えることを決めた。建築するに当たり、玉城町は様々な方法で住民の声を聞くことにした。その工程の中には、本研究の一環として昨年度実施した高校生ワークショップも含まれた。高校生たちは、駅での待合の時間に空調のある待合室があるといい、などの思い思いの意見を述べ、それが入れられた駅舎が間もなく完成しようとしている。こうして、玉城町における住民の声を聞く取り組みは少しずつ前に進んでいる。

その玉城町の人口を見てみると、2020（令和2）年国勢調査の小地域集計をもとに

報告者においてコーホート変化率法¹により玉城町全体の人口の将来における推計を行ったものが図1となる。玉城町においても、人口は緩やかな減少カーブを描き減少を続けている。

順位	昨年	自治体名	偏差値	評点	回答数
1位	1位	員弁郡東員町	65.1	69.0	168
2位	2位	度会郡玉城町	63.8	68.8	100
3位	3位	三重郡朝日町	63.3	68.7	100
4位	5位	津市	61.3	68.3	1,681
5位	14位	多気郡多気町	59.8	68.0	75
6位	4位	名張市	59.7	68.0	452
7位	6位	亀山市	57.0	67.4	286
8位	10位	鈴鹿市	54.9	67.0	1,225
9位	13位	桑名市	53.6	66.8	994
10位	11位	四日市市	52.8	66.6	2,165

回答数 10,949名

図2 民間調査による「幸福度」ランキング

一方で、図2は民間企業が調査した三重県内の「街の幸福度 & 住み続けたい街ランキング2023」の結果である²。玉城町は三重県北部の東員町や朝日町と並んで第2位にランクインしている。

このように、近年では後にも触れるように、玉城町内に住居を求め転入してくる、新住民が一定数いることは注目に値する。

図3は玉城町における人口の社会増減の様子である³。グラフより見て取れるように、2022年においては若干の社会増となっている。また、グラフは年代別になっているため、その転入超過の年齢層が0～64歳であることもわかる。

2014年にいわゆる「増田レポート⁴」により「消滅可能性都市」という言葉が報告され、その後「人口減少」という言葉が多く語られるようになったが、その視点から見ると、転入が一定数で起きていることは喜ばしいことと言える。また、「増田レポート」は若年女性比率が2040年までに激減する自治体を洗い出し「消滅可能性都市」としたわけであるが、図4、図5は玉城町と近傍にある南伊勢町の人口ピラミッドである⁵。比較してみると形が明らかに異なることがわかる。玉城町においては、全世代について平均的であるが、南伊勢町については逆ピラミッド型であることがわかる⁶。

このように、玉城町においては比較的転入が多く、それも若い世代において見られ

¹ コーホート変化率の方については、次のサイト等を参照のこと。

https://www.pref.mie.lg.jp/DATABOX/000217003_00011.htm

² 「街の住みごころランキング特別集計街の幸福度 & 住み続けたい街ランキング2023 <三重県版>」

https://www.kentaku.co.jp/miraiken/market/pdf/research/sumicoco/release_happiness2023_mie_20231101.pdf

³ RESAS>人口マップ> より

⁴ 日本創成会議・人口減少問題検討分科会(座長:増田寛也)による「成長を続ける21世紀のために『ストップ少子化・地方元気戦略』」のこと

⁵ RESAS>人口マップ>人口ピラミッド

⁶ 本人口ピラミッドでは人口の構成比率によって表されるため、人口総数などの多寡については比較できないことに注意が必要。

年齢階級別純移動数
三重県玉城町



【出典】
総務省「住民基本台帳人口移動報告」
【注記】
2017年までは日本人のみ、2018年からは外国人を含む移動者数を表示している。
東京都国立市は2012年2月から住民基本台帳ネットワークシステムに接続したため、2011年以前については、転出数、純移動数ともに該当数値がない。2012年の転出数は2月から12月の値であり、転入数と集計期間が異なるため純移動数は該当数値がない。
福島県矢祭町は2015年3月30日から住民基本台帳ネットワークシステムに接続したため、2014年以前については、転出数、純移動数ともに該当数値がない。2015年の転出数は4月から12月の値であり、転入数と集計期間が異なるため純移動数は該当数値がない。

図3 玉城町人口の社会増減の状況

るといえる。しかし、このことが同町において一つの問題をはらんでいることをここで述べておきたい。近隣の人口減少過多な自治体からは「贅沢な悩み」といわれるであろうものであるが。

それは、新来の住民と旧来の住民の交流や、新来の住民が地域でのつながりをいかに作るか、といった問題である。農村集落中心の旧来の玉城町においては、これまでの慣習や伝統を元に、様々なこと（年中行事や共同作業など）が前例踏襲で進めていけるが、新来住民においてはそうではないし、また世代が違い、価値観が違う（と思込んでいる）住民間での融和が難しいという思い（こみ）があることである。

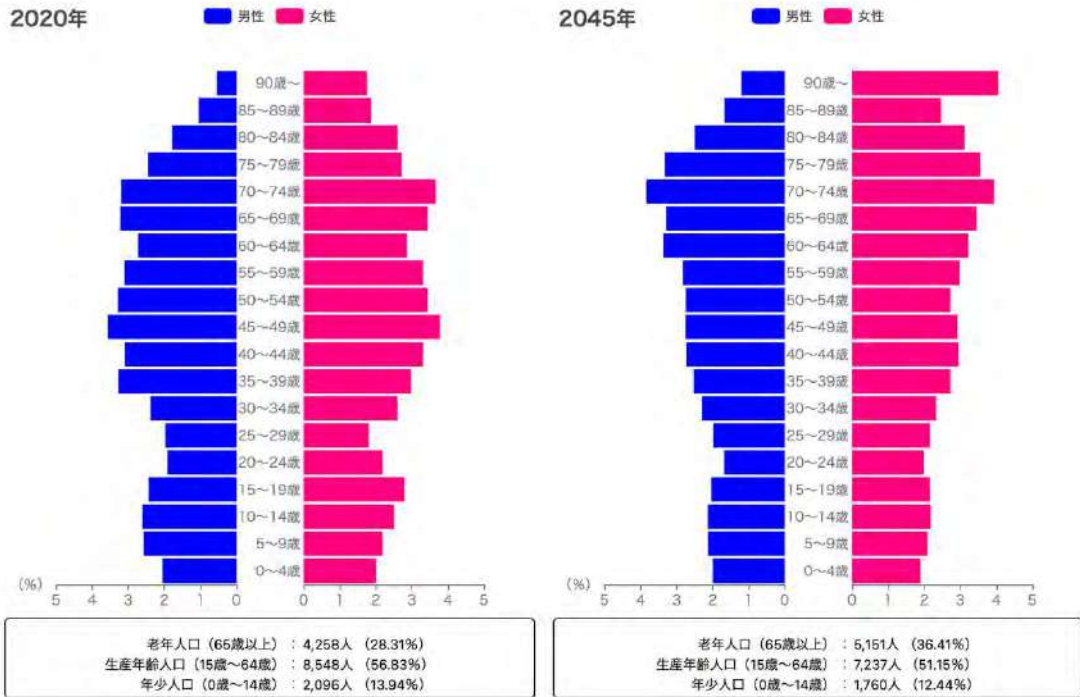
本年は後述する住民ワークショップを2地区において実施した。ワークショップは表1の通り3種類実施し、「地形模型WS（ワークショップ）」「地域課題見える化WS」を一体とし昼田地区で行った。また、「まちあるきWS」を下田辺地区で、地区の子ども会と合同で実施した。

表1 WSの内容・目的

WSの種類	内容・目的
地形模型 WS	地形模型をもとに、住民各自が持っている情報（歴史、文化、自宅、生活等）を模型上にプロットすることにより、地域の現状や資源、課題を空間的に把握、共有する。
地域課題見える化 WS	アプリ、地形模型や航空写真等をもとに地域空間における地域課題を見える化し、共有するとともに住民同士の対話を行う。
まちあるき WS	住民、高齢者、大人と子供が実際に地域を歩くことで、地域資源を改めて発見し、対話を行うことで連帯を強化する。

また、「地域コミュニティのあり方研究会」においては一般社団法人地域問題研究所が実施した転入して長くない住民を対象としたインタビュー調査の結果をご提供いただき、議論した。そこから見えてきた課題と今後の解決策について、本報告書では報告するものとした。

人口ピラミッド
三重県玉城町

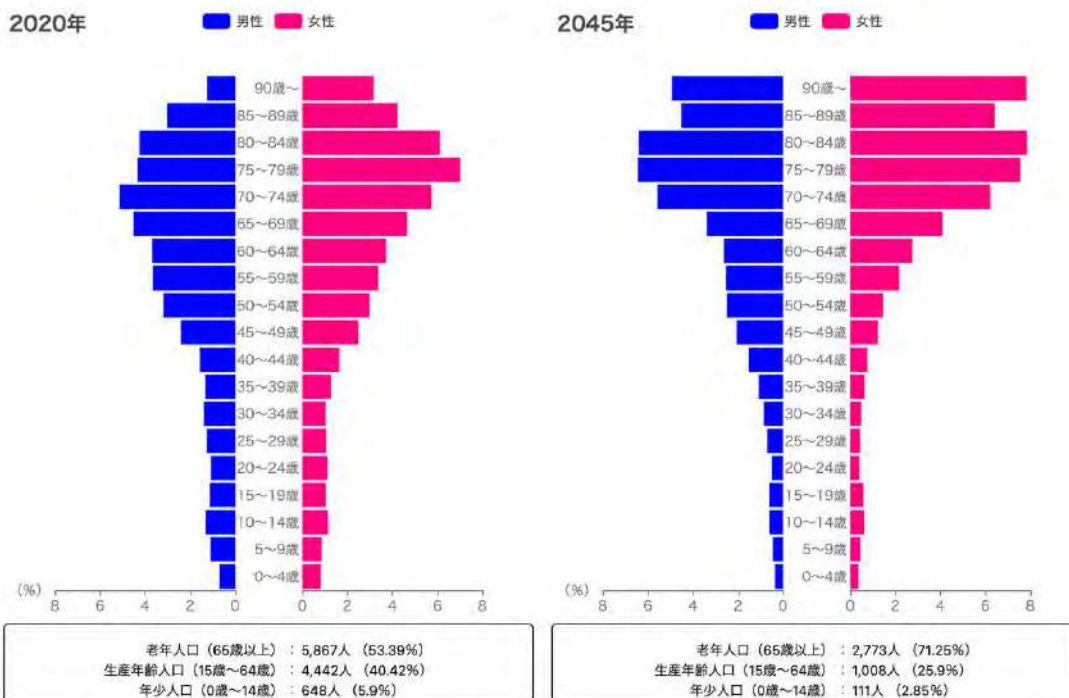


【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。
2025年以降のデータでは、福島県については、県単位での推計。
2025年以降のデータでは、12の政令市（札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）については、区別に推計を行っており、8の政令市（さいたま市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、堺市、岡山市、熊本市）においては、市を単位として推計している。
総数には年齢不詳を含む。

図4 人口ピラミッド（玉城町）

人口ピラミッド

三重県南伊勢町



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以降のデータでは、福島県については、県単位での推計。

2025年以降のデータでは、12の政令市（札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）については、

区別に推計を行っており、8の政令市（さいたま市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、堺市、岡山市、熊本市）においては、市を単位として推計している。

総数には年齢不詳を含む。

図5 人口ピラミッド（南伊勢町）

（2）地域課題の「見える化」の取り組み（昼田地区）

① 背景

玉城町昼田地区は、清流として知られる一級河川宮川と、同水系の汁谷川にはさまれた場所に位置する（図6）。治水地形分類図によると、現在の堤防と氾濫平野⁷の間にある、微高地⁸（自然堤防）に分類されている。

図からも分かる通り、過去水害の危険性にさらされてきた地区であり、ワークショップ中での聞き取りにおいても、住民の暮らしと「河川」、「水」との関わりがとて

⁷ 図7中緑二着色の部分

⁸ 図7中黄色に着色の部分

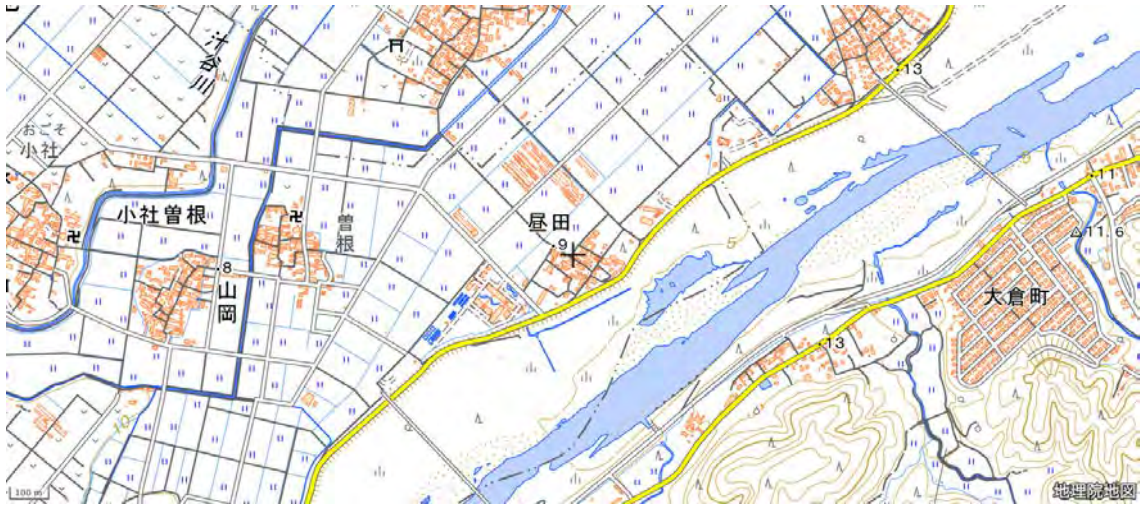


図6 玉城町昼田地区（地理院地図より）

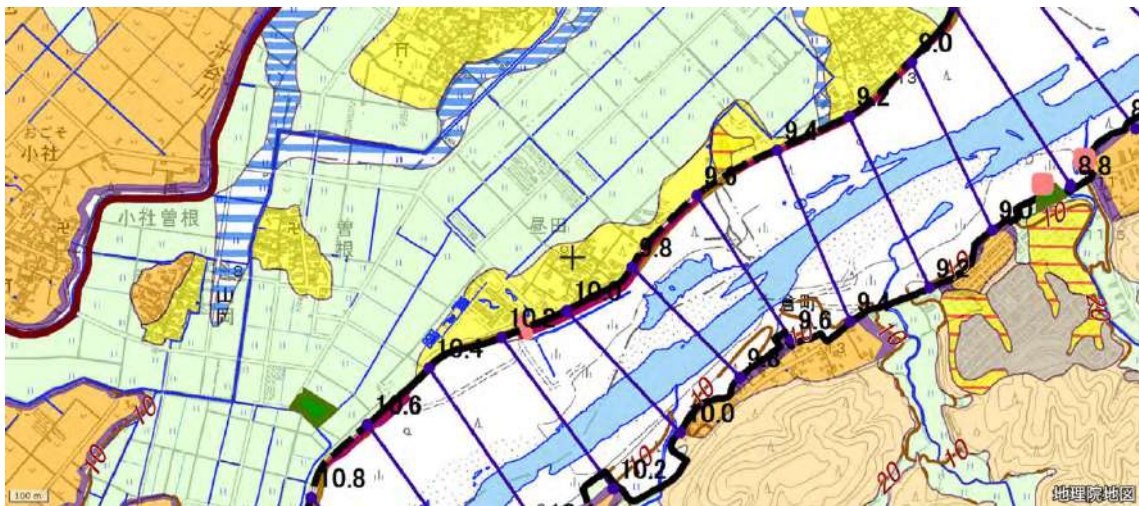


図7 玉城町昼田地区（治水地形分類図 地理院地図より）

大きいことを確認した。

本年度においても、令和5年8月15日に和歌山県潮岬付近に上陸した台風7号の影響により、玉城町からはそれに同日午後0時27分警戒レベル4（避難指示）を昼田、山岡、曾根、岩出地区（203世帯 559名）に発令、地域の方は不安な時間を過ごされたという。13日の振り始めから16日の降り終わりまでの降雨量は220.5mmに達した⁹。

⁹ アメダスのデータより。

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/daily_a1.php?prec_no=53&block_no=0509&year=2023&month=8&day=&view=

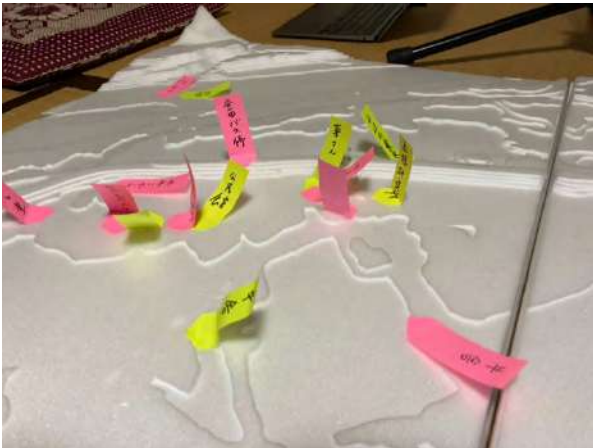


図8 付箋紙によるプロット



図9 地理情報の投影

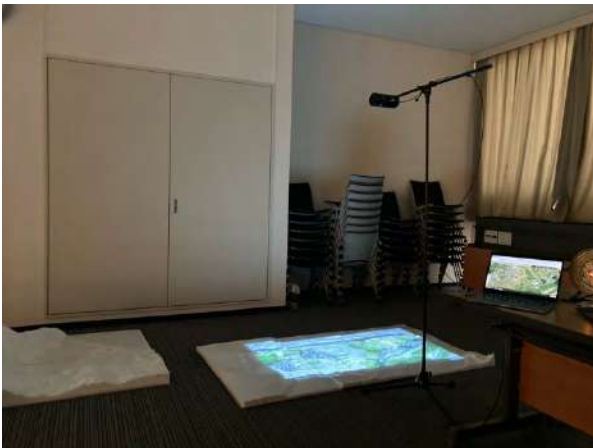


図10 投影システム

このように、昼田地区ではこれまで、おそらくは今後も水害との対峙、及びそこからどうやって命を守るか、という部分において関心が住民の関心が高いことが考えられる。

そこで、昼田地区においては、地形模型を中心とした住民ワークショップを実施し、水害が予測される際の避難のタイミングや経路などについて語り合ってもらうとともに、豊かな水の恵みを受けている同地区の良さを再確認していただくワークショップを企画することにした。実は、まちあるきも同時開催を検討したが、実施日が1月の寒い時期の雨となったため、室内のみのワークショップとした。

詳細は資料に譲るが、ワークショップは次のような流れで実施した。昼田地区の集会所において実施し、まず、作成した地形模型をご披露した後、子どもたちに地形を下に自分たちの自宅を探してもらった。真っ白な地形模型の中から地形のみを頼りに特定の場所を探すことは案外に難しく、子どもたちは苦労していた様子であった。自宅を探し当てた後、子どもたちにはこの近くで面白いところを教えて、として付箋紙に書き出し、それを模型上にプロットしていった。付箋紙には「バス停」

「公民館」「牛舎」「自動販売機」等、生活に関わる様々な地域空間に存在するものがプロットされていった。その後、地域の方々に歴史的なものや伝統的なものなどを教えていただき、「薬師堂」「砦」などをプロットしていった。結果、子どもたちは歴史、伝統的な事物を大人たちは子どもたちの視点から見た地域を再発見する、といった内容でワークショップは進んでいった。

次に、模型にプロジェクターで地理情報を投影し住民同士で対話を行った。模型上に後述する装置を使い地理院地図をベースに現在のもの、過去のものの航空写真を投影し、ハザードマップ等を投影することによりあたかも鳥の視点から地域を見るように、地域の情報を「見える化」することがこのプログラムの狙いである。集まった住民からは、過去の水害時の様子、避難の状況やその際に井戸の地下水の水位の上昇が見られたことなど、今後の防災に活かせる情報がやり取りされていた。

ワークショップの手法について、今年度機材の刷新を行った（図 10）。これまでは、ワンオフで制作したプロジェクタースタンドに一般的なプロジェクターを使用していたが、今年度、可搬性などを考慮に入れて表 2 のシステムに変更した。概ね良好に運用することができた。システムは、市販の小型プロジェクターを三脚にマウントするネジを利用し、ネジを変換することによりブーム式のマイクスタンドに接続して行った。注意事項としては、重量バランスとして前方に重心が偏るため、手元側に重しを設置することである。なお、今年度の投影データについては、汎用性を重視しインターネット上で誰でも手に入れられるものを利用した。また、地形模型に関するデータを表 3 に示す。なお、本模型の製作に関しては、皇學館大の学生による模型作製チームの努力があった。お礼を申し上げる。

表 2 プロジェクションマッピングのシステム

プロジェクター	NOMVDIC R150 モバイルプロジェクター
マイクスタンド	K&M ブームタイプマイクスタンド 210/2 BLK
変換ねじ	YFFSFDC カメラネジ変換アダプター

表 3 模型の仕様

縮尺	1 / 1 0 0 0
等高線ピッチ	1 m (= 1 m m のスチレンペーパーを使用)
実寸	1,000m m × 1,800m m

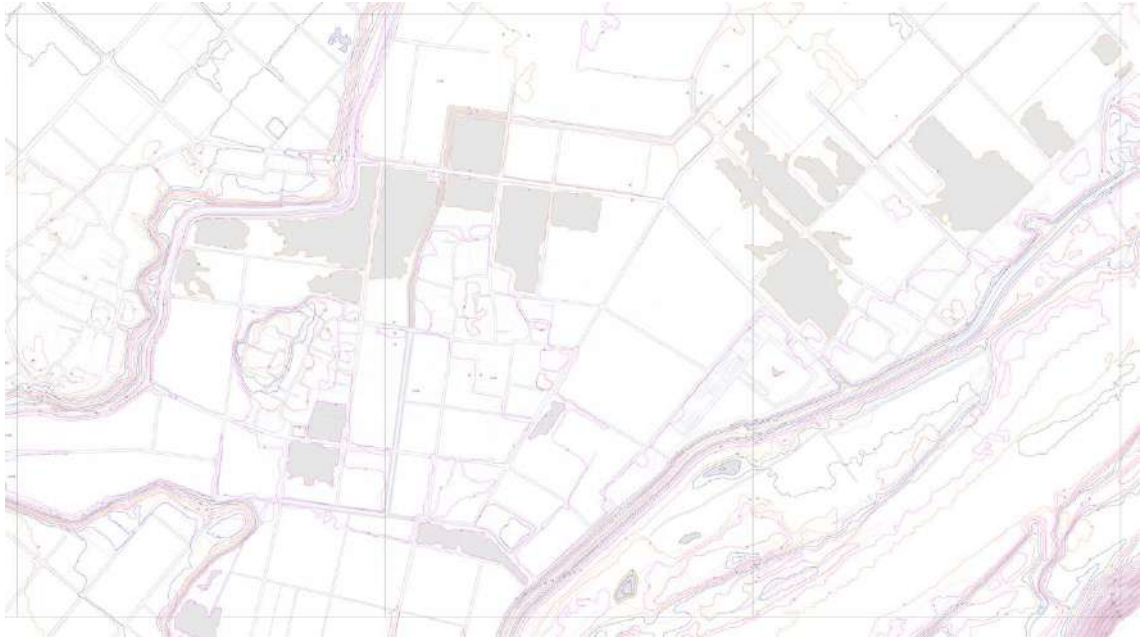


図 11 模型全体図面



図 12 昼田地区 (DJI AIR2S により空撮 令和 6 年 2 月 17 日)

(2) まちあるき WS

子どもたちに地域の良さを再発見してもらうための、まちあるき WS を実施した。今年度は下田辺地区の子ども会と合同で行うことになった。下田辺地区の概要については、図 13¹⁰ に示す。

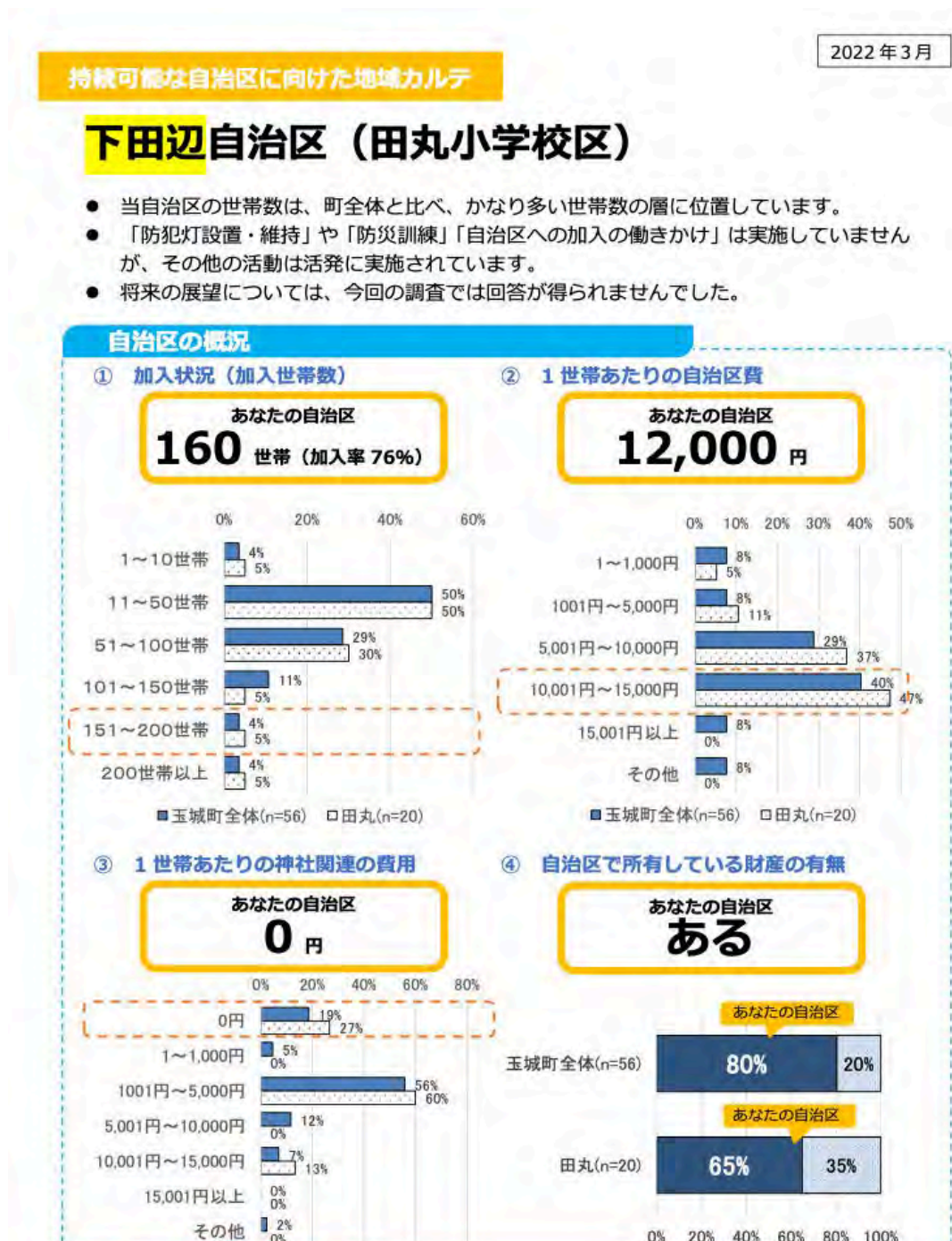


図 13 下田辺地区 (自治区カルテより)

¹⁰ 令和4年3月玉城町作成自治区カルテより



図 14



図 15

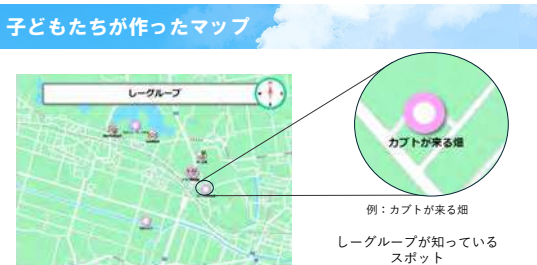


図 16

大まかには、下田辺地区は既存の農村集落に、宅地開発の新興住宅が融合している地域と言える。小学校区としては田丸小学校区に位置するが、近年では最も大きい集落の1つとなってきている。子供の数も多く、子供会も現存している。コロナ禍の間、活動自粛していたが、今回何か地域の事について学ぶ活動をとの相談を受け、本事業とのタイアップとコロナ禍中活動自粛していたが、今回何か地域の事について学ぶ活動をとの相談を受け、本事業とのタイアップとなった。

これまではWEBアプリ「マチシルクエスト」を開発し、昨年度は「マッチ（街）・カード」と題するカードゲームを作成したが、今年度は子どもたちのまちあるきを支援するツール「ロゲミン」を開発した。本ツールは、皇學館大学と包括連携協定を締結している近隣高等教育機関である鳥羽商船高等専門学校の授業「PBL」の履修学生3名、本学の地域活動であるCLL活動参加学生1名とともに、近年注目されている「ロゲイニング¹¹」という野外ゲームのルールを下敷きに、子どもたちが楽しくまちあるきを行い、地域の良さを再発見することを支援するためのものとして開発した（図14～16¹²）。

本ツールを利用したまち歩きワークショップは次のようなルールで実施された。

¹¹ ロゲイニング(ROGAINING)またはロゲイン(ROGAINE)とは、オーストラリア発祥のナビゲーションスポーツです。コンパスと地図を持ち指定されたコントロールポイント（以下 CP）をまわりいかに多く得点を獲得するかを競います。（日本ロゲイニング協会HP より）

¹² 令和6年度皇學館大学伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム学修成果発表会資料、「ROGE - MIN～ロゲイニングを使った下田辺地区ワークショップについて～」、辻井健斗、前田遙、三野琳久、2024 より

ゲームルール¹³

時間 1時間20分想定

範囲 半径500メートルの円内

8か所のポイントを設定し、地図交換後にそのうちの5か所のポイントを回る。

- (1) 初めに班に分かれて8か所のポイントを設定してもらいます。
- (2) 作成した地図を他の班と交換した後、8か所のポイントから自分たちが行く5か所のポイントと全体のルートを相談して決めます。
- (3) 班ごとに付添人に続いて5か所を歩いて回ります。
 - ・班の付添人はそのポイントへ行った証拠として写真を撮ってきます。(機材貸し出し)
- (4) 全ての班の到着後に自分たちが回ったポイントの得点を計算し、優勝の班を表彰します。



図 17 ルール説明

当日は、子ども会とのタイアップであったこともあり、非常に多くの子供達で賑わった。子どもたちはまち歩き終了後、皇學館大学学生発案のマイクロご当地キャラクター「シモタヌー」の缶バッジを作成し、参加賞とした。子どもたちからは「楽しかった」「来年も開催してほしい」などの声が聞かれた(図 17~19)。



図 18 ロゲミン使用中



図 19 缶バッジ製作

¹³ 当日の実施用資料より抜粋

(3) 玉城町コミュニティのあり方研究会

表4 玉城町コミュニティのあり方研究会 委員

委員 (50 音順)	所属・専門等	(ア) 研究会の開催
浅見雅之氏	合同会社人まち住まい研究所代表社員・NPO 法人神戸まちづくり研究所事務局長 (まちづくり支援、災害復興支援・防災)	一昨年度より有識者による「玉城町コミュニティのあり方研究会」を組織し、昨年度4回、今年度も研究会を4回開催した。これは、今後の玉城町のコミュニティのあり方について、研究者や全国で活躍する地域支援の実践者の方々を委員にお迎えし、現状の分析及び将来に向けての取組の方向性などを検討するものである。研究会のメンバーは表4
池山敦	座長・皇學館大学教育開発センター准教授 (コミュニティ政策、ファシリテーション)	
石丸隆彦氏	特定非営利活動法人Mブリッジ・まちづくりコーディネーター (地域支援・課題解決)	
伊藤純子氏	静岡県立大学助教 (保健指導、公衆衛生)	
名取良樹氏	玉城町地域おこし企業人・面白法人カヤック ディレクター (移住マッチングサービス等企 画運営等)	
橋本大樹氏	一般社団法人東北まちラボ代表 (災害被災コ ミュニティ支援、集落支援)	
春日俊夫	一般社団法人地域問題研究所	

のとおりである。今年度の会議はすべてオンラインで開催された。

詳細は別紙議事録に譲るが、今年度はその中でも、特に前述の通り一定数の転入者が毎年ある玉城町において、転入してきた人たちの地域のつながりに着目して、自治区の加入や結成などをテーマに議論を重ねた。その中で、やはり対象について知る必要があるとの結論になり、一般社団法人地域問題研究所が実施した転入者対象インタビュー調査の結果をもとに議論を行った。

(イ) インタビュー調査の概要

インタビュー調査は次の手順でリクルートを行い、研究会へは個人情報消したうえで、結果のみを報告いただき、その内容をもとに議論した。方法としては、いくつかの基本的な設問¹⁴を用意したうえでの半構造化インタビューとした。

- ① インタビュー調査協力への依頼を該当する地域¹⁵にポスティングにて配布
- ② インタビューイからフォームへの回答

¹⁴ 設問は次のようなものである。「現住所に転居してきた年月」「前住地(市町村)」「町内会・自治会に加入していたか」「この住宅地で生活する上で不便や不安に感じていること」他

¹⁵ 地域の選定は次の基準であった。A)近年造成された住宅地であること、B)地域に自治区が結成されていないか、既存の自治区にも加入していない地域であること。

③ インタビュアーが訪問し聞き取りを行う

(ウ) インタビュー結果

3世帯の呼びかけに応諾していただいた対象者に一般社団法人地域問題研究所が調査を実施している。以下は報告された内容の要約である。3つのケースでは、それぞれ条件がA)30代夫妻、子供あり、B)50代夫婦、夫婦のみ、まだ転入していない(購入後、入居前)、C)30代夫婦、子供あり、子供は保育園、というものであった。全体に関しての特徴として、地域のつながりについては否定的ではなく、一定程度肯定的であること。また、自治区についても全く否定的ではないが、旧来の農村集落の姿のものには拒否感があること。地域内でのインフォーマルな情報が少なくそこに不便を感じていること、などが挙げられた。

(エ) 研究会での議論

インタビュー調査の報告を受け、研究会で議論が行われた結果、次のような支援策の方向性が示された。いずれの支援策にしてもベースには、住民の自己決定があることが確認され、住民の自己決定を以下に支えていくかが重要であることが確認された。

- ① 地域情報へのアクセス強化: ICT ツールを活用しながら、新入居者の地域情報環境を向上させる。
- ② 地域における話し合いの支援: 地域における生活上の問題点や、地域空間の共同管理(ゴミ集積場など)につき、専門的人材による地域別課題解決型ワークショップを実施する。
- ③ 自治区の役割とメリットの啓蒙: 自治区への参加意欲を高めるために、自治区の役割や地域における重要性、参加することのメリットをさらに広報する。
- ④ 住民主導のプロジェクト支援: 地域の課題解決や活動を住民自身が企画・運営できるようなサポート体制を設ける。
- ⑤ 多世代交流の促進: 年齢層が異なる住民同士が交流できるイベントや活動の企画。子どもから高齢者までが参加できるまちあるきやスポーツイベント、文化活動などの実施や支援。

(オ) 町長・副町長への提案

令和6年2月26日に巻末添付の「玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務『地域コミュニティのあり方に関する研究会』令和5年度提案まとめ」をもとに、町長公室にて辻村町長、田間副町長に報告するとともに、意見交換を行った。

終わりに

この稿を書くために、参考にと昨年の報告書を見たところ、昨年は3月8日に書いており、今年は少し早くに手掛けたぞ、と独りごちている。

これまで、ここには心に移り行くことを地域の有り様とつなげて綴っている。全くの私事であるが、SNSに投稿する際に「ハッシュタグ」というものがある。一定の記号を付けて短いキーワードを投稿するとそれが検索キーとなって、関連投稿がピックアップされるものである。近年私が続けてつけているものに、「コーヒーのある暮らし」と「コーヒーのない暮らし」というものがある。「ある」方は、今の幸せに目を凝らして見てみることに、という意味を込めているつもりである。わたしたちは、今の手の平にあるものにも気が付かない。反対に「ない」方はというと、これは戦域や災害に巻き込まれて、1杯の暖かいコーヒーを飲むこともままならない人たちが多くいることを忘れないように、という戒めのつもりである。

ウクライナにロシアが侵攻してから2年が経過した。また、イスラエル・パレスチナの戦争が起きてからもうすぐ半年になる。今年の元日には能登半島地震があり、来週には東日本大震災から13年となる。

私達は手のひらにあるものの大切さには気づかずに、いつも違うものを求めてしまう。旧来の集落に住まう人たちは近隣のつながりを煩わしいものと感じ、これまでの積み重ねを「前例踏襲主義」と嫌ったりする。反対に、新来のつながりの無い住民たちは「地域のつながり」を求めるが、一定程度の距離感を保ちたいという。手のひらにある色褪せたものと、どこかここではないところにある、虹色のものをいつも比べてしまう。

これまでの慣習があることは、全く前例がない中で地域での距離感を作っていかなければならない新来の転入者には望むべくもないことである。反対に、今からイチから関係を作っていける、何を住民の義務とするかを決めていけることは、数百年前からの集落の住民は羨望の眼差しで見つめる。

実はその二者がこのことについて語る場がないのではないか。ちょうど鶴と狐の昔話のように、お互いの不便さを、そしてお互いの素晴らしさに気がつくことのできる「場」が必要なのではないだろうか。それを作ることを模索し続けたいと思う。

最後に、本研究事業にご助力いただいた地域の皆さん、関係協力機関の皆さん、本学事務職員及びアルバイト学生諸君、そして玉城町役場職員みなさんに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

令和6年3月6日
皇學館大学教育開発センター准教授
池山敦

「令和5年度『玉城町明るい未来づくりに関する調査研究』におけるワークショップ等実施事業」
業務 概要

地域でのワークショップ

No.	タイトル	実施場所	実施年月日	備考
1	下田辺地区 子どもまちあるき	下田辺公民館	令和5年11月25日	18名参加
2	昼田地区 立体地図を使った防災ワークショップ&子ども缶バッヂづくり	昼田区公民館	令和6年1月20日	14名参加
総参加者数				32名

コミュニティのあり方研究会

No.	タイトル	実施場所	実施年月日	備考
1	第1回研究会	オンライン	令和5年8月10日 13:30~15:30	
2	第2回研究会	オンライン	令和5年10月6日 13:30~15:30	
3	第3回研究会	オンライン	令和6年1月22日 13:30~15:30	
4	第4回研究会	オンライン	令和6年2月2日 10:00~12:00	

**令和5年度「玉城町明るい未来づくりに関する調査研究」における
ワークショップ等実施事業 実施報告書 vol.1**

タイトル	下田辺地区 子どもまちあるき ※新規地区（1年目）
開催日時	令和5年11月25日（土）9：00～12：00
開催場所	下田辺公民館及びその周辺
参加者	子ども15名、大人3名
スタッフ	皇學館大学教育開発センター池山敦准教授・学生4名、鳥羽商船高等専門学校 中井一文准教授・学生3名、Mブリッジ2名、玉城町役場総務政策課2名
当日のスケジュール	
09：00 事業説明	
09：10 ルール説明、アプリにて地図作成 地図交換	
09：50 まちあるき	
11：10 ふり返り	
11：40 終了	
概要	
<p>今回のワークショップは、まちあるきを通して下田辺地区の子どもたちや地域住民が地域の魅力を再発見することを目的に、子ども会の行事の一環として実施した。</p> <p>冒頭、玉城町と皇學館大学・池山敦准教授が挨拶をし、ワークショップは皇學館大学の学生がファシリテーターとなって進行した。まずは4つのグループに分かれた子どもたちが、鳥羽商船の学生が作成したアプリ「ロゲミン」を利用し「オリジナルまちあるきマップ」を作成。会場である公民館から半径500mの範囲内に自分たちの知っている情報をもとに8か所のポイントを設定した。どんなポイントを設定するか話し合い、子どもたち独自の目線から「つきあたり」「カブトが来る畑」「古い公園」「何もない景色がある道」などのポイントを設定していた。その後、他のグループと地図を交換。実際のまちあるきでは、地図に書かれた8か所のポイントの中から5か所を選びまわるため、回るポイントや道順、ルートを相談して決め、出発した。</p> <p>まちあるきは「ロゲイニング※」というゲームのルールをアレンジして、到達したポイントにより得点を競うゲーム形式で実施した。各ポイントに到着したら写真を撮影し、次のポイントへ向かった。なお子どもたちのグループには学生や大人が付き添い、安全に配慮した。</p> <p>全ての班がゴールしたら、自分たちが回ったポイントの得点を計算し、優勝の班を表彰した。また参加の記念として、皇學館大学の学生が田丸神社の獅子舞をイメージしてデザインした「シモタヌー」のオリジナル缶バッジを制作し、記念として渡した。</p> <p>ワークショップを通じて子どもたち自身が地域をふり返ったり、また地図の作成や一緒に歩くことを通して他者の目線から地域を知ったりする機会となっていた。また大人は子どもの目線から改めて地域の魅力をふり返る機会となっていた。</p> <p>参加した子どもからは「地域をみんなで歩いて楽しかった」「来年もやってほしい」などの感想が聞かれた。</p> <p>※ロゲイニング…地図、コンパスを使って、山野に多数設置されたチェックポイントをできる</p>	

だけ多く制限時間内にまわり、得られた点数を競う野外スポーツ。

実施風景

〈ロゲミンをつかったまちあるきマップ作成〉



大学生による進行



商船学生によるアプリ説明



まちあるきマップ作成

〈まちあるき〉



まちあるき



まちあるき



まちあるき



缶バッジづくり



優勝グループの表彰



集合写真

報告書作成：Mブリッジ

**令和5年度「玉城町明るい未来づくりに関する調査研究」における
ワークショップ等実施事業 実施報告書 vol.2**

タイトル	昼田地区 立体地図を使った防災ワークショップ&子ども缶バッチづくり
開催日時	令和5年1月20日(土) 9:00~11:00
開催場所	昼田区公民館
参加者	住民14名(大人9名、子ども5名)
スタッフ	皇學館大学教育開発センター池山敦准教授・学生3名、Mブリッジ1名、玉城町役場総務政策課1名

当日のスケジュール

09:00	事業説明
09:10	ワークショップ 立体地図に、「自分のお家」「地域の面白いところ、教えてあげたい場所」「昔のこと」などを書き出し貼付
10:00	防災ワークショップ&缶バッチづくり 立体地図に防災情報を投影し意見交換。 子どもたちは缶バッチづくり。
11:00	終了

概要

今回のワークショップは、地域の現状を地域住民に「見える化」することで、地域課題を自分ごととし、地域の自己決定を支援することを目的に実施した。

冒頭は、玉城町とファシリテーターの皇學館大学・池山敦准教授が事業の説明を行った。その後、池山敦准教授から立体地図を使って、子どもから大人まで、「自分のお家」「地域の面白いところ、教えてあげたい場所」「昔のこと」などを対話しながら付箋に書き出し立体地図に貼っていきながら地域の情報を「見える化」するワークショップを実施した。

完成した立体地図に参加者それぞれが、自分のお家や地域の面白いところ、教えてあげたい場所、昔のこと等を対話しながら付箋に書き出し、立体地図に貼っていきながら地域の情報を「見える化」するワークショップを実施した。その後、大人は立体地図に防災情報を投影し防災情報の確認や地域の防災について参加者同士で意見交換をした。子どもはオリジナルの缶バッチを作成した。

実施風景



地域の情報を「見える化」



防災ワークショップ



缶バッチづくり

報告書作成：Mブリッジ

令和5年度 第1回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和5年8月10日（木）13:30～15:00

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、春日俊夫氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

オブザーバー：皇学館大学伊勢志摩共生学実習学生、東京大学体験活動プログラム学生

① 挨拶など

〈池山氏より〉

- 研究会は年間通して4回実施する。

〈玉城町総務政策課より〉

- 今年度も自治会/自治区以外のコミュニティについてよいご意見をいただきたい。
- 今年度はこの研究会で出てきたことを試行的に走らせていきたい。

② 委員自己紹介

● 浅見雅之氏（人・まち・住まい研究所）

- ・ 建築設計業。兵庫県の地域づくりアドバイザーとして、中山間地の集落、神戸市のニュータウンの地域づくり、コミュニティの再生支援に携わる。

● 石丸隆彦氏（特定非営利活動法人 Mブリッジ・まちづくりコーディネーター）

- ・ 地域づくり、まちづくりのお手伝いをしている。
- ・ 普段は若者が地域に関心を持つための事業をしている。

● 伊藤純子氏（静岡県立大学看護学部助教）

- ・ 公衆衛生看護学（保健師を養成する過程）を担う。
- ・ 地域の健康の実現のためには人と人とのつながりが重要な課題である。

● 春日俊夫氏（地域問題研究所）

- ・ 2年前から玉城町の小学校区を中心としたコミュニティ形成の事業に関わる。
- ・ 普段の業務では山間地域の過疎、限界集落の課題に関わっている。

● 名取良樹氏（玉城町地域活性化起業人／面白法人カヤックディレクター）

- ・ 鎌倉のおもしろ法人カヤックから玉城町に出向。
- ・ 法人では移住のマッチングサービスを進めていた経緯から、現在空き家対策のモデル事業に取り組んでいる。

● 橋本大樹氏（一般社団法人東北まちラボ代表）

- ・ 震災後、宮城県山元町の自治会、町内会のコミュニティづくりに関わる。

● 池山敦氏（座長・皇学館大学教育開発センター 准教授）

③ 自治区の加入率の報告と議論

- ・ 住民を対象にした調査（小中学生を除く）、玉城町の69自治区の区長対象の調査の2つの結果を中心に報告する。

（住民対象の調査結果より）

- ・ 住民対象の調査では「あなたは自治区に入っていますか」という質問に対して4417人（84.1%）が「入っている」と回答。「入っていない（7.7%）」「わからない（4.9%）」は13%程度である。
- ・ 玉城町としても転入届の提出時に「自治区に入るつもりがあるか」をたずねており、約20～25%が未加入だと認識している。
- ・ 住民調査の結果と出身地をクロス集計すると、玉城町出身者でない人（転入者）

の方が未加入の率が高くなっている。

- ・ 小学校区別にみると有田地区は未加入の人が多。長更、岡村、久保などの地区に未加入が多い。久保地区は、県道の近くに新しい住宅やアパート、小学校の隣に割と大規模に住宅地が開発されており、そこにあまり加入されていない世帯がある傾向。
- ・ 細かな地域別でみていくと、外城田地区の松ヶ原も多い。
- ・ 下外城田は未加入が少ない。農地は農業生産のために必要なものであり、田んぼを勝手に潰して家を建てることのできないルールがある。反面、新しい人が入ってこないので高齢化が非常に進み、人口の減り具合が多いという問題もある。
- ・ 田丸地区は田丸城の城下町が基本のエリアで、全体的に未加入が少ない。旧城下とその外側にできている住宅地では住民の年齢層も違い、エリアの雰囲気もだいぶ変わる。
- ・ 未加入率のトップ3は、長更、久保、松ヶ原が非常に高い。
- ・ 中には引っ越しなどで新しい家を建てたが、自治区に入れてもらえなかったという驚きの事実もある（36票）。多かったのは、長更、勝田、松ヶ原。
- ・ 玉城町における自治区あるいは自治会は、古いところだと昔は小さい村だった。そこには地域の共有財産があった。ご飯を炊くために柴刈に行く山や、水を引き入れるために共同でつくった池など。例えば10人で財産を持っていたところに1人入ってきたら、財産をつくるときにお金を出していないのにメリットだけがある。そういうことを好まない傾向がある。
- ・ 居住期間と自治区の未加入をクロス集計すると、居住期間5年未満の方は未加入が多い（25%弱）。5年以上10年未満になると未加入の率は減るが、未加入の人も年月が経つと入るのかは1つの論点である。
- ・ 集合住宅について。佐田地区には非常に集合住宅が多い。久保地区にも多い。久保地区に未加入が多いのは集合住宅があることも背景にあるのでは。
- ・ 最も未加入の多かった長更地区は55世帯が入り、加入率51%。中には「入れてもらえなかった」という回答もある。理由として自治区が所有する財産があり、加入を断ったというケースもあったようだ。
- ・ 自治区の運営上の課題と今後の課題・展望について。「10年後も自治区を問題なく運営できると思うか」という問いに長更地区の区長は「現在のままでは自治区の運営に問題が出ていると思う」と回答している。今のままでは難しいという自覚が少なくとも区長にはある。
- ・ 一方で転入者への対応について「加入希望があれば許可する」という自治区側の回答と「入らせてもらえなかった」という新住民の回答には食い違いがある。お互いに誤解があるのではないか。
- ・ 久保地区の加入率は18世帯、18%とかなり少ない。「10年後も自治区を問題なく運営できると思うか」という問いに区長は「わからない」と回答。「加入希望があればどうするか」という問いには「その都度協議で決める」となっている。
- ・ 岡村地区の自治会加入は44世帯、83%。今のままでは10年後の運営に問題が出ていると思うという回答をいただいております、新規の加入希望も許可しており、積極的に加入の働きかけを行っている。しかし17%は加入をされていない。
- ・ しかし自治区に入っていない人が「地域活動が必要でない」と回答しているわけではない。加入/未加入によって地域活動への考え方に大きな差はない。

- ・ 地域の情報について。広報紙、市町村のHP、回覧版、防災行政無線などがあるが「どうやって地域の情報を届けてほしいか」という問いに対して、自治区の人は回覧版で回してほしいという人が6割いるが、自治区以外の人には関係ない話なので回覧版を希望する人は非常に少ない（回覧版は自治区単位で回しているため）。防災行政無線も各戸に配布されているがそこから情報を得たいと思っている人は少ない。

（区長対象の調査結果より）

- ・ 区長の年齢について。50代までが26.8%で、60代以上が74%。
- ・ 地域と神社の関係について。地域には氏神さんといわれる神社があり、そこで地域の自治区は非常につながりが強かった。地域と神社との関係についての問いには全体の6割以上が「関係がある」と答えた。
- ・ 性別について。区長、自治会長は圧倒的に男性が多い。女性の割合は10%程度。他地域では女性ゼロという現実も多いなかで健闘しているのでは。
- ・ 区長の負担感について。「自治会長は大変か」という問いに対し「とても大変」「まあまあ大変」が7割を超えている。

（補足）

- ・ 賃貸住宅、貸家、集合住宅への対応について。あえて自治区として拒絶しているわけではないが、若い人が単身で企業に勤めている場合、「すぐに出ていくから」という理由で入っていない場合が多いのではないかと。自治区は排除しているつもりはない。
- ・ 自治会に入る人とはだれなのかを考えると「居住者」と「滞留者（一時的にそこにいる人）」という表現を使い分けている自治体もある。誰が入るべきなのかを検討すべき。
- ・ 財産があるゆえに加入を認めない地域もある。過去に財産が売れたことがあった。ゆえに加入を受け入れないが、一方で出合いに人手が足りないという課題も生まれている。

（意見交換）

- ・ 旧村より新しい地区の方に自治会加入率が高いことに驚いた。
 - ⇒ 新しく団地ができたときは、団地だけでまとまって自治会をつくるので加入率が高くなっている。
- ・ 自治会があるところで育った人は「自治会があることが当たり前」という価値観があり、そのなかで自治会が再生産されていくのではないかと。
 - ⇒ 同様の理由から神戸のニュータウンでは、自治会加入率83%という地域もある。一方、六甲アイランドの分譲マンション群には「近所づきあいが煩わしい」という人たちが構成されており、つい最近まで自治会活動をやったことがなかったが、最近、必要や目的（子どもたちが帰ってくる場所をつくる）が生じて活動を始めた地域もある。
- ・ 玉城町において自治区に加入する・しないを考えると、問題になるのは「財産」「賃貸住宅」「神様」の問題になる。新興住宅団地などの新しい自治会はそういった問題がない。昔ながらの自治区は経緯や長老の意向から変えたくても変えられない状況がある。新しい自治会はそういったしがらみがないので、制度や行事をフレキシブルに運営されていることを感じた。
- ・ 自治会をつくらないと実利が得られないような行政サービスなどがあるのか。
 - ⇒ 自治会があった方が行政として要望（草、排水路に関すること）を受けやすくなる。補助制度を受ける時も個人ではできないため、それらが自治会をつくるきっかけになることが多い。

- ・ 城下（田丸地区、佐田地区）は中にさらに殿町・大手町などの地区があるが、もともと「人の集まり」なのでエリア的な意識がない。少し離れたところに1軒家が建った時、どこに属するかなど集落の線引きが難しい。

④ 玉城町「地域コミュニティ活動」支援施策（案）について

- ・ 地域コミュニティ活動を支援する方針を決めていく。
- ・ 地域コミュニティ活動の類型について。地域における活動には「地縁の活動」「目的別の活動」の大きく2つの種類がある。
- ・ 参加する人にもさまざまある。住んでいる人、事業所、働く人、通学者など。
- ・ 活動エリアについても、玉城町全体を対象にしているところもあれば、小学校程度のエリア、自治区、その都度決めるなどさまざま。
- ・ 支援については次の施策・方策によって行う
 - ア：活動に対する資金的支援
 - イ：活動の企画や運営等に対して助言したり伴走したりする専門家による人的支援
 - ウ：活動における公共施設の利用、町が有する物品等の賃貸等による物的な支援
 - エ：活動の広報・周知の支援
 - オ：玉城町に貢献する地域コミュニティ活動に対する表彰等
- ・ 資金的支援について。さまざまな団体が使える「地域コミュニティ活動補助金」も予定している。提案書を出してもらい、審査をして、補助金をつける。審査は補助金の審査委員会をつくって行う。
- ・ 補助金を上手に活用してもらうには、マッチング、フォローの役割をする人材が必要では。
- ・ 現時点では活動をスタートするための補助金だが、せっかく生まれたものを維持するための補助金も必要ではないかと考えている。あまり甘やかしてもいけないのか。
 - ⇒ 一定のお金を出すので、儲けるなどどんな事業をしてもいいから「地域のために何かをする」事業コンペをするのもいい。出てきた人たちを地域づくりに巻き込んでいく方法が若い人たちを誘い込むのに有効ではないか。
- ・ 山元町では報奨金制度がある。自由に使えるお金を渡す。（例：公園の管理にかかる活動に面積に応じて謝金を渡す。お金の使途の報告は不要で、何に使っても構わない）行政側も地域側も審査や報告の手間がかからない。

⑤ その他

- ・ 次回は10月を予定。玉城町内で自治区の問題の実証などをご提案できれば。

令和5年度 第2回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和5年10月6日（金）13:30～15:00

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、春日俊夫氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

① 挨拶など

- 自治区、自治区以外の団体に対する方針が佳境に入ってきた。10月から次年度の予算審議が活発化する。有意義な意見を頂戴したい。
- いただいたご意見をもとに次回までにアクションを起こしていきたい。次回で振り返り、4回目で提言をまとめたい。今回はアクションの方向性が決まればよい。

〈委員より一言〉

- 石丸氏
10/15に地域で活動中の高校生・大学生のオンラインのトークイベントを実施する予定。
- 橋本氏
宮城は暴風で電車が止まっている。
- 名取氏
現在、三重県庁の仕事で人口減少対策に携わっている。住民からの課題抽出、ヒアリング調査を行っている。今回の事業に活かせるような情報、課題はうまくフィードバックできればと考えている。
- 春日氏
玉城町事業の関係でおまつり的なイベントを検討している。自主映画会、講演会、子どもの遊び場づくりなど。3年間の集大成を考えている。
- 伊藤氏
先日、ヘルスコミュニケーション関連学会で福島市へ。ヘルスコミュニケーションは第3の医療と言われている。医者が患者に治療をどう説明するかで患者の予後が変わってくる。あたたかく見守る先生とそうでない先生では変わってくる。その学会に参加して、今この研究会の取組みをどう住民に発信するか、どんなかたちでコミュニケーションをとるかも考慮できるとよいと感じた。
- 浅見氏
9月は池山氏とよく会う機会があった。

② 【論点1】：「なぜ自治区加入が必要か」についての議論

〈池山氏より〉

- 「加入することのよさ」を確認したうえで、それをどのように伝えていくかが大切だと考えている。「加入が必要」という前提で話をしていきたい。
- 今、公と私の中に大きな「すきま」ができています。公と私のボーダーラインは時代によって変化しています。
- 例えば、大規模災害が発生したとき、自治会未加入世帯の安否確認をどうするか。
例) 宮城県山元町では住民基本台帳をもとに区長が確認していた。
- 玉城町において南海トラフで懸念すべき被害は住宅の倒壊と火災(300軒程度)と想定されている。倒壊、焼失を免れた際に在宅避難者が多くなる可能性が高い。
- 回覧板などの情報の不達。入っていない人は情報がいかないが、それでも困っていないのではないかと。回覧板というシステムへの疑問。別の方法が必要か。

- 自治会には誰が入るべきか（集合住宅は一般的に2年間の契約が標準。2年間だけ住む人が自治会に入るべきか）。アパートは「準会員」とする、災害時のみ共助を行うという方法もある。
- 「みんなが入らないといけない」という小さな「強制」が必要ではないか。
- 親心（「あなたのためを思って言っている」）では伝わらない。現代的な住民はそういった感覚が少ない。そういう人に対してどう整合性をとっていくか。

〈意見交換〉

- 大規模災害が発生したとき、未加入世帯の安否確認はどのように考えているか。
 - ☞ 地域防災計画などには明記されていない。自治会に尋ねる、自主防災の組織から情報を吸い上げるなどが想定される。自治会に入っていない人の確認をどうするのか、明確な案はない。（玉城町より）
 - ☞ そもそも第一義的な安否確認は行政の仕事なのか。緊急時には行政が一人ひとりの安否を確認することにリソースを使っている余裕はないはず。行政が「地域の仕組みで解決してください」という出し方をすべきではないか。最終的に把握するのは大切だが、全てを行政にまかせるのはかわいそう。
- 「なぜ加入が必要か」は難しい課題。「災害が起きたときに困るから」という理由で義務的に加入すべきかということ、そうではない気がする。加入することが「安心」「楽しい」「幸せ」「できることがふえる」などのストーリーが必要ではないか。
- 災害時の対応について。ヘルスの業界では「災害は健康課題」として扱っている。地方自治法では「行政は住民の健康と命を守る責務がある」と謳われている。法に基づいて、健康と命を守るための対策を講じなければいけない前提がある。しかし実際、役場が1軒1軒安否確認をすることは難しいが「住民の安全を守るための仕組み、対策」の理屈は通しておいた方がいいのでは。
- しかし緊急時において、行政が一義的な安否確認している場合なのか。
 - ☞ 行政が安否確認の作業をしなくてもよい。とりまとめ。どういう風に調べるか。そのための仕組み（どういう風に把握するのか、災害弱者を把握するシステムなど）を明確にしておく必要はある。
- 「自治会加入はなぜ必要か」をヘルスの視点からいうと「命と健康を守るために最低限必要な仕組み」と言うこともできるかを感じる。
 - ☞ 「町民の命と健康を守る」は誰も否定できないが、しかし直結しない。「別に自治会でなくてもよい」という見方もできる。説明するためには、もうひとつクッションが必要。
 - ☞ 「命を守るために最低限自治会に入る」という視点はありだと感じた。
 - ☞ 自治会の必要性を考えたときに、自治会が「よくできた仕組み」であることは確か。よくできた仕組みだが運用がグタグタ。「ある・なし」の議論よりも「どうあるべきか」が大切なのでは。行政が住民に責任を負うために説明ができれば「自治会」でなくてもよい。しかしそれ以外に替わるものがない。
- 「小さな強制」には共感できる。ヘルスの業界では「予防」は「小さな親切、大きなお世話」。災害時、有事の対応は、大変な状況を予防するために行っていること。住民に必要性をわかるように伝えるためには、コミュニケーションでクリアすべき課題である。
- ヒントになりそうな事例として「ゴミ集積場の管理費は払うが自治会には入らない」という運用をされている地域がある。それと同じような形で「命を守る仕組み」として「災害時の協力はするが、自治会には入らない」というのがあってもいい。
- 自動車保険の「ベースの部分（自賠責）」と「オプション」がある。「対物・対人、

弁護士特約をどれくらいつけるか」などはその人の考えや運用の仕方で異なる。「10か0」ではなくて“自賠責自治会員”と“任意自治会員”のように「選べる」ということがあってもいいのでは。

- 自治区と一括りにいうが実態はさまざまである（旧城下町、農村、新興住宅地など）。発生の起源も組織も全然違う。戦後の民主的な時代に作られた自治会は民主的だが、古い地域で出合が多かったり、負担が多かったりするのには民主的に決めたことでないことも付随しているから。そんななか「最低限の部分」という視点では線が引きやすい。「命と健康を守る」は「最低限の部分」になり得るのではないか。一部の地域では「自治会には入らなくてもいいけど、自主防災にははいつて」というところもある。「命と健康をみんなを守る」という線があるといい。それが「準会員」などのかたちになるのか。あくまで任意団体なので強制は難しい部分もあるが…。
- 今の時代、遠距離でも“心”はインターネット・電話・LINE など ICT などにつながっている。“体・心”も遠隔治療は完全に整ってはいないが、小包を送る、ネットで買い物するなど物流は整っている。
- 近距離の“心”のつながりとしては、ご近所づきあい、立ち話など。“体・物”は、お裾分け、災害時の安否確認など。
- 近距離の“体・物”には平時と非常時がある。平時はお年寄りなど弱者の安全、健康の見守りなどがメインになる。非常時は全員が対象になる。近距離の体・物には代替手段がない。物理的な近接性が必要になる。電話やインターネットがつながらないとき、近くにいないと、隣の人が生きていのかどうか確認できない。この「非常時のための普段のつながりや練習が要るのでは」というところを健康や命を守るための拠り所とする。非常時になると遠隔などがなくなる。非常時のために最低限のことができる関係がないといけない。それが先ほどの「ベースの部分（例：自賠責）」であり、根っこではないか。そのために入会を考えていただけでないか、と提案するのはどうか。
- 行政としては「自治区加入者」と「加入していない人」の分け隔てがあるかというところと「ある」とは言いにくい立場である。平成 29 年の水害時に被害の状況を知るために全職員がローリングで地域に入った（安否確認も含めて）。その際に自治会長にも協力してもらい全軒回ることができた。自主防災組織は自治区加入の有無に関わらずエリアで組んでもらうように依頼をしている。区と自治防災エリアが異なる。自主防災組織の世帯数によって補助金が調整されるので、自主防災組織のエリアを大きくした方が補助金をたくさんもらえるというインセンティブがある。加入促進をしたいが「なぜするのか」を理解いただくのをどうすればいいのか。現在 69 地区あるが、統合できないかという視点もある。（玉城町より）
- 「自治区に入っていないけど自主防災組織に入っている」「自治区は 50 軒だが自主防災組織は 100 軒」という状況で行政はよいのか？
 - ☞ それで OK なら自治区加入の話は不要では。
 - ☞ 自主防災組織に入るなら、自治区にも加入するように促したい。災害という切り口から地域をまとめていきたい。しかし多くの世帯は自治区エリア＝自主防災の対象エリアである。（玉城町より）
 - ☞ 現在の自主防災組織は 22～23 エリアある。町としては自治会長と自主防災組織の長は別の方をお願いしている。自治会長は毎年変わるが、自主防災組織は複数年担える人のイメージ。（玉城町より）
- 自主防災組織でいいのでは、という印象がある。「防災」のために自治会に入るように説得するというストーリーは、自治会長も説明が難しいし、住民の立場にたつ

てもそれを言われても響きにくいのでは、という印象がある。保険の例のように「基本料 1000 円」、「オプション（例：防災 100 円）」のような形になっていくのでは。自治区の運営自体が疲弊しているときに、いろんなことを足していくのはしんどいのでは。

- 山元町では、自主防災組織はもともとあったが、行政区に対して防災計画をつくるように行政から通達があったときに「自主防災組織を見直す」というものがあった。自主防災組織≒自治会となっている。
- 質問。「加入＝命を守る」はイメージしやすい。自賠責保険、医療保険のように受け取れるものが明確。区入りという観点に置き換えたときに提供価値を考える必要がある。一個人として、有事の時に「自主防災組織に加入して受けられる価値」と「区入りしていることで受けられる価値」は異なるのか。
 - ☞ 基本的には同じ。（玉城町より）
 - ☞ イメージとして、水害時にその地域で共助は自主防災組織、配給などは区入りの必要があるようなすみわけがあるのかと感じた。
 - ☞ 自治会に入っている人は自主防災組織に入っているのがベース。自主防災組織にはプラスで自治会に加入していない人が入っている。自治会にも自主防災組織にも入っている人の方が若干の待遇がよくなる可能性はある。有事が起こっていない現状では「自治会として備蓄されている食料などをなぜ区入り外の人に渡すのか」という議論があり、原則「区入りしていない人には備蓄品を提供しない」という考えがある。理論的には区入りしている人に優先的に渡していくことになる。（玉城町より）
 - ☞ 加入していない人は、一個人として有事のときに受けられるサービスのイメージがついていない人が多いのではないか。
 - ☞ 有事の時には、人道的な観点も生まれると思うが、普段から区入りしていない人は有事の時に肩身が狭いし、備蓄品を当然という顔をして受け取れないということはある。「公共のもの」と「自治区の備蓄」は素性が違う。
 - ☞ そこに気づいている自治区や自主防災組織は「その時のためにも自主防災組織に入ってほしい」という観点で区入り外の人に伝えているところもある。
- 提案。現状で3分の2しか自主防災組織がない。3分の1には自治区しかない。区が有事の互助組織も兼ねている。一義には「自治区への加入」が町民の健康や安全、災害時の暮らしを守ることになる。あるいは自主防災組織を組織してその役割を担うところもある。「少なくともどちらかには入った方がいい」という考え。
- 賃貸住宅（アパート）について。2年契約など短期間で滞留する人まで、既存の自治区に入ることは今の世の中の考えと合わない。賃貸住宅はごっそり抜いて考えてもいいのでは。しかし公と私の間のポケットに落ちてはいけぬ。例えば、災害時の安否確認は管理会社が行うことができる。そのように切り離してはどうか。
 - ☞ そこで暮らす人ならできれば同じグループになればいいという想いはある。単身、仕事のために暮らす人とファミリーで暮らす人とでは地域とのつながり方も違う。（玉城町より）
 - ☞ 現実的ではないのでは。「入りたい」とう人は入ればいい。
 - ☞ 誰が入るべきを考える時にアパートの居住者を「入るべき人」といって考えるのか。例えば、管理会社や大家さんなど「1棟」という単位でカウントして自治会に入る地域もあるのでは。
 - ⇒ アパートの人は「入るべき」とカウントされず、一軒家が「入るべき」と

カウントされることの説明がつきづらいのではないか。

⇒ 玉城町において土地を買って住むことは長期間そこで暮らすことを意味する。一方、賃貸住宅の人はその地域の未来に向けた利害関係を持っていない。線引きは難しいが、厳然として「住み続ける人」と「一時的な仮住まいの人」との間には大きな違いがあるように感じる。それが自治会に入る必要性の違いの気がしている。

⇒ それを賃貸住宅で分けるという線の引き方には問題があるのでは。

☞ アパート自体が組になっていて、アパートに暮らすためには加入が義務とされている例もある。

☞ 家賃の中に自治会費が入っている例もある。会費は納めるが、特例として「町内会活動に出なくてもいい」ということが規約に書かれている。「家賃と一緒に」というのは田舎では多い。

☞ 例えば団地や公営住宅は、一人暮らし、低所得の人が集まりやすい。「孤立死」などのリスクから考えると除外してしまっているのか。

⇒ 現状で町営住宅では自治会が存在しており、基本的にはカバーしている。しかし低家賃の賃貸住宅にケアが必要な高齢者が暮らしている可能性はある。ネットワークから落ちてしまうこともある。

⇒ アパートの契約として自治会加入が前提であれば、その人が望む・望まないに関わらず、その人が独居であったら必ず地域と関わらないといけなくなる。理屈としては順当である。

⇒ 賃貸の方が契約条件に入れられるので、加入を促しやすいかもしれない。契約に「加入を原則」とすることで、入らざるを得なくなる。月々何百円の世界。ただ自分で土地を買う人は自分たちの判断になるので難しい。しかし家賃から引き落とされているだけで、地域との交流がなければ、有事のときに見落とされる可能性はある。その観点からすると「有事のために」ではなく「地域とのつながりのために」というストーリーの方が自治会長は説得しやすいのでは。

- 自治会に関する最近の悩ましい話題。現在、玉城町で田んぼを造成した宅地開発が進んでいる。耕地整理の問題で「妙法寺」という地名だが、妙法寺では「中楽」の土地だという声があり、一方中楽では自分たちの地域ではないという声もある。行政的な線引きはあるが、現実（住民の認識）は異なるという部分がある。地域と地域の間で宅地が建つとき、行政はそこまで面倒を見切れない。誰に挨拶をしにいけないか、わかりにくい。
- 明治の初めの地域の地図は線がない。人の住むかたまりが決まっていた。地名のみ書かれていて線引きがされていない。

③ 【論点2】：対策案について 〈池山氏より〉

- 案①：玉城町全域の転居5年、未加入の世帯を対象に実態調査を行う。（背景：転居5年以内の方の未加入率が高かった）
- 案①-2：玉城町で未加入の多い地域に絞って案①の調査を行う。（加入促進のパンフレット封入、加入されているかどうかを確認し住基データの書き換えも行う？）
- 案②：賃貸住宅の管理者（会社、大家）への働きかけ（災害時の安否確認に関する協定など）
- 案③：未加入が多い地域の区長等への支援のアプローチ

- 研究会では全体を議論し、どれか1つを実施する。

〈意見交換〉

- 住基データには自治会に加入しているかどうか書かれているのか？
 - ☞ 区入りするかどうかの意思は役所で管理する情報ではないが、窓口で聞いた情報は記録（把握）している。（区長に伝えることもある）
- 案③について。1つは、自治会が加入を促進したいと思っていない雰囲気が大きくある。変革のアプローチをどうするか。2つは、区長は1年単位で変わることが多いので、交替してから区長と話をして申し送りがほとんどない。どのようにつないでいくか。
 - ☞ 調査対象としては、加入促進についてウェルカムな地域であることが前提にある。野篠は区長が何年かに一度回ってくるので、長期的に捉えている。そのような地域がいいのでは。
- 個人的な興味としては案①が知りたい。年間の転入世帯はどれくらいか？
 - ☞ 年間100軒くらい建っている。調査はしやすい規模である。実際どうか、入っていないのはなぜか、などを深掘りしていく。
- 案①と③はセットで実施できるのでは。
- 案③について。特効薬がなく、漢方的な薬を持っていくしかできない。
- どうしてもネガティブな要素の切り口の意見が多くない。加入するメリットの例として、マイナカードの促進にマイナポイント付与したように、加入を促進するときにそういう視点の議論もあっていいのでは。
 - ☞ どこかの地域で自治会に加入するとポイントがもらえて、町内で買い物するときに割引されるなどの事例があった。自治会を通して町内会で使える商品券を使うなどは現実的にもできるのではないか。
 - ☞ 分かりやすく実感できるメリットがあると良い。それ以外のメリットをどうつくるか、が本来議論すべきことだとは思いますが、メリットが分かりやすく伝えやすいと加入促進はしやすい。
- 「ご褒美」「インセンティブ」で行動を促すのは大事な視点。人が望ましい行動をとるために必要なモデル「自己効力感」。自治会に入るメリットがあることは理解できるが、新参者の自分が自治会に入ってやっつけられるかどうかという不安もある。入れるだろうと見込みを持てることが行動を後押しする。1つが「お手本」。新しく入った人がうまくやっているという話を聴くこと。2つめは「成功体験」。少し参加してみたらとてもいい体験ができた、うまく参加できたなど。3つめは「感情・気分」。そこに入ることが自分にとって良い、楽しいと感じられること。4つめは「励ましの言葉」。自治会に入ることがなぜいいのかが説明される、ということ。そういう条件が揃うと行動化できる。自治会加入を促進するための案を当事者の視点から考えたときに、そういう視点から検討がされているのか。
 - ☞ 現状として、他の転入者、移住者の声を聴く機会はない。
 - ☞ そういう支援策もあるがどうやって届けるといいかというコミュニケーションの課題もある。
 - ☞ 転入してきた人に配布する資料に「自治会に加入した人の体験談」があるといいのでは。それならできそう。（案④）
- 自治会の加入案内は必ずしも区長がいく必要はない。新しく転入した人がいく方法もある。
- 区入り外の人々のシャベリバのようなこともできればいいという話をしていた。
 - ☞ 新しい人たちだけで「わからないこと」「不安に思うこと」をお互い共有し、

話す場があってもいい。数軒単位で家が建った場合など。

- ☞ お互い話していないからこそ、話す機会をつくと知らなかったことを知る機会になる。古い人と新しい人では「当たり前」が違うので、その当たりの認識のすり合わせ（新旧のすり合わせ、新しい人同士のすり合わせなど）があってもいい。
- ☞ 寄り合いの場も必要だが、そこで世間話はしにくいのでは。雑談や世間話ができる仕組みをモデル的に実施してもいいのかもしれない。
- 案①は興味がある。「入りたい」と回答した人がその後どうなっているのか。「入りたい」意味があっても、入れなかった場合はどうするのか。
- 自治会に入っている人と入らない人の寿命の差はあるのか。
- ☞ 明確なデータは地区組織活動をしていた方がいいというエビデンスはある。
- 転入者の相談会について「ここに行ったら相談できる」という打ち出し方はある。シャベリバのようなことを設定して「地域コミュニティに溶け込みたいがどうしたらいいか分からない人」の相談に乗る、区長との橋渡しをすることはできる。
- 案①の人に対して、相談会（転入者のシャベリバ）の案内を出すこともできる。
- 転入者にもいろいろなパターンがある。区に住んでいるが規約として入れてもらえない。エリアとしては入れない。新規の分譲住宅など自治区をつくらないといけない問題意識はあるが、言い出したら世話役をしないといけないのでなかなか言い出せない。そのあたりの事情を聴き出して、話を整理することはできる。自治区に入る・入らないではなく、普段の生活の困りごとも含めて聞き出す、一緒に考えて挙げることはできる。自治区加入の話題だけでなく、生活をよりよくすることが目的。その場合、役場は同席しない方がいい。（案⑤）
- できることを実施して、その結果を次回検討してご意見をいただきたい。

令和5年度 第3回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和6年1月22日（月）13:30～15:30

開催方法：WEB会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、春日俊夫氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

① インタビュー調査の結果報告

- 当初はアンケート調査の想定だったが、対象エリア・軒数を精査するなかで、サンプルが非常に少なくなることから、今回はインタビュー形式で実施した。
- 対象地区は、田丸小学校・有田小学校の隣にある自治会未結成エリアの住宅地。田丸小学校の近隣住宅地は10軒以内、有田小学校の近隣住宅地は40軒弱くらい。そこで住む人たちがどういうことを考えて暮らしているのかを調査した。
- 全49軒にポストイングを実施。フォームからの申込が2件、電話での申込1件があった。計3件に実際に話を聞いた。

〈地域問題研究所からの報告〉

- 有田小学校の近隣住宅地2件、田丸小学校の近隣住宅地1件にて40分程度のインタビューを実施
- Aさん（30代男性）※有田小学校の近隣住宅
 - ・ 家族構成は夫婦+子供4人。夫婦ともに自営業（在宅でWEB関係の仕事）。
 - ・ 住宅地は、第1期（50～60代が多い）、第2期（比較的若い世代）、第3期（現在販売中）に分かれており、Aさんは第2期に居住している。
 - ・ 令和元年に明和町から転入。住宅地に自治会がないため入っていない。
 - ・ 子どもを通じた近所のつながりはあるが、助け合い等の必要性は感じない。
 - ・ 小学校が近いので防犯等も不安を感じない。
 - ・ 行政情報は「広報たまき」を熟読。公式LINEも活用。
 - ・ ゴミ出しは、住宅地の1期、2期ごとにゴミ出しかごを設置。ゴミ当番等は決まっておらず、指定日以外のゴミ出し、分別不完全での未回収などに対応する人がいない。第3期の人は2期のかごに出している。
 - ・ 住宅内に小公園があり、草刈りなどの管理が必要になっている。
 - ・ 大きな困りごとがあった場合は、販売事業者の現場事務所に相談している。地域の掃除、草刈りなどは1期に居住するリーダーが声をかけて、住民で行っていたが、人数が増え、すべてに声かけするのが難しいので、次年度から1期、2期、3期ごとに行うことになった。
 - ・ 他の地区のような自治会は必要ないと思う。自治会へのメリットや負担が分からない。現時点で、自治会で対応しなければいけない問題を感じない。
 - ・ ゴミ当番を決めたり、小公園の草刈りを委託に出すためにお金を集めたりといったグループはあってもよいと考えている。しかし区長や役職を決め、区長会に出るまでの必要性は感じない。
 - ・ 自治会の組織までは必要ないが、課題を解決していくグループは必要か。つくるなら1期、2期、3期のそれぞれのグループになると思う。
 - ・ 住民が自主的に自治会を設立するのは現実的に難しい。リーダーのなり手もない。
- Bさん（50代女性）※有田小学校の近隣住宅
 - ・ 夫婦のみ家族。3期の住宅を購入済だがまだ転居していない。
 - ・ 現在はさいたま市のマンションに居住。

- ・ 転居後、夫は現在の勤務先の東海支店（名古屋）への通勤を希望。
 - ・ 夫は津市に居住経験あり。妻が玉城町出身。玉城町にはふるさと納税をしていたので好感を持っている。
 - ・ 自治区・自治会がないエリアということはまだ知らなかった。現在の居住地ではマンションとして自治会に加入している。地域の行事が盛んな自治会。
 - ・ 暮らしの心配は、交通について（運転の機会が増えること、また将来運転しなくなったときのこと）。転入者向けの情報がほしい。
 - ・ 現在は気軽に相談できる人はいないので、相談できるような人がほしい。
 - ・ 自治会があれば、自然に入っていると思う。しかし農家中心の自治区で寄り合いが多いところ、神社にかかる多額の費用を求められる場合は躊躇するかもしれない。
- Cさん（30代女性）※田丸小学校北側の住宅地
 - ・ 家族構成は、夫婦＋子供2人。
 - ・ 12区画あるが、現在の入居はCさんのみ。妻の実家が玉城町。
 - ・ 住宅地に自治区がない。転入時に役場から「自治区に入れない」と言われた。販売業者からは自治会については何も聞いていなかった。
 - ・ 近所のつながりはほとんどないため、何かあったら実家に聞く。
 - ・ 回覧がないので近隣の情報が分からない。小学校の廃品回収にも協力したいが分からない。知りたいことがあればインターネットを検索するが、身近な行事等の入手先がない。LINEを充実させてほしい。
 - ・ ゴミ出しは現在の住宅地のゴミステーションを1軒で利用している。地域のリサイクルステーションは自治会未加入なので使えない。役場まで持っていくかなければいけないのが不便。
 - ・ 自治会に入れてくれるのであれば加入する。自分たちで自治会を設立するかどうかは今後入居する人次第。

〈総括〉

- 3件ともに自治区のないエリアに居住している。（既存の自治区に新しい住宅地の加入を認めない方針がある）
- 3件ともに自治会があれば自然に入っているのでは。（受け入れ先の問題）
- 感じている課題は「ゴミ出し問題（ゴミステーションの管理、ごみ当番の不在）」「地域の情報（行政の情報というよりは、近隣の情報）」「近所にはこだわらないが町内でのつながりを欲している」など。
- 自治会の必要性はそれほど感じていない。住民が自主的に設立することは難しい印象。しかし必要最低限の近所のグループはあってもよいと思っている。
- 何らかのつながり、コミュニティは求めている。

〈玉城町からの補足〉

- 夕方にポスティングに行ったが、自治会に所属していないこともあり、街灯が設置されていないので真っ暗だった。（町としては幹線道路を中心にしか設置しない）
- 自治会がない背景として、有田小学校の近隣住宅地は「新しい地区は入れない」と断られたエリア。田丸小学校の近隣住宅地は田んぼを開発したところで、どこの自治会エリアに入るかが定まっていなかった。

② 議論

- 自治区がないことによる弊害は具体的などんなことがあるのか？（例：リサイクルステーションが使えない など）どんなデメリットがあるのかがイメージしにくい。⇒ 例えば、自治区内の公園の草刈りなど。その地域に何かあったとき（例：道路

をつくるなど)にどこに話をしていったらいいか分からない。ゴミの集積は行政サービスだが、ゴミ集積所の管理は自治区が行うため管理に携わらないとゴミ集積所が使えない場合がある。街灯は行政が全てをつけることができないので街灯がつかない場合もある。(町は、公共の福祉として必要な場所にはつけるが、地域住民のみが恩恵を受ける場所では、自治区が町から補助を受け、管理運営をする仕組みになっている。管理運営する組織がないと成り立たない)

- ⇒ 学習等共用施設は自治区の人しか使えない現状がある。町が指定管理で出しているのに自治区に入っている人しか使えないのはグレーゾーンでは。
- ⇒ 自治区を通じて、行政サービスを行う部分をどうするか。考え方のスタンダードを変えていかないといけない。自治区に入っているいなくても行政サービスを受けられる、しかし自治会に入っているとこんなふうに便利になるという考え方にできるといい。「入らないとデメリットがある」ではなく「入らないことがベース」だが「入ることによってメリットがある(利便性が高まる)」という発想の転換の必要がある。
- ゴミ捨て場に関しては、玉城町は開発時に設置をするように開発業者に伝えている。開発業者が関わっている時期はいいが、それ以降の管理などをどうするかという問題がある。ゴミ集積所の土地は町有地になる。今回のケースは、ゴミ捨て場はあるが、誰が管理するかが明確になっていない。またリサイクルステーションは管理運営を自治会にお願いしているので、自治会の加入の有無で利用できる、できない場合がある。
- 今回のインタビュー調査は、住民向けにはどんな名目で実施したのか。
 - ⇒ 新しく転入した方に向けて、地域のくらしやすさに関する調査というふわっとした調査名で実施した。
- 「情報」を求めている声が多かった。
 - ⇒ 広報紙に書いてある情報ではなく、もっと身近な情報(例:神社の情報、小学校の廃品回収など)を欲している。現在はそれらが回覧に集約されている。
 - ⇒ 対応として、ホームページで公開して周知することはできる。
 - ⇒ 定期的な情報ならいいが、臨時の情報をインターネットにあげても気づかない。プッシュ型(例:LINEなど)でないと伝わらない。
 - ⇒ 情報が回覧で届くことが自治区のメリットとするか?
- インタビュー調査をした住民は玉城での生活をどう認知しているか。玉城への生活を不便だと感じているのか、気に入っているのかの印象はどうか。
 - ⇒ 不満がたくさんある方はほぼいない。好意的にインタビューを受けてもらった。デメリットとしてゴミの話は共通していた。情報については人による。行政情報、近隣の情報、行政にひもづかない活動の情報を欲している。街灯の問題については、若い世代は街灯は町が管理しているか、自治区が管理しているかの区別が分からないのでは。
- 今回は自治区のあるなしを住民側の目線からインタビューしたが、行政側からの自治会のあるなしのメリットデメリットはどうか。
 - ⇒ 行政からすると自治会があると楽。何かあったときに地域に話をしにいくとき「地域=自治区」という認識がある。
 - ⇒ 自治区がないエリアに何かあったときにどうするかを考えや経験を持ち合わせていない。何かあって行政と地域が話しをしないといけない時は自治区をつくることを勧めるのではないか。
 - ⇒ 行政側が管理しやすいという理由で「地域=自治区」と位置付ける行政サー

ビスのスタンダードを見直さないといけない。それが今はグレーだから、明確にできない状態だと感じた。行政サービスのスタンダード（ミニマムなプラン）を示し、自治区に加入することによる利便性の高いプランを提示し、どちらを選ぶかは住民次第という座組にしていけないと、いつまでもグレーのままになっている。

- 地域のつながりの必要性は感じるが、自分がリーダーになるのは…という意見が多い。自治区までいかななくても、未結成エリアの住民同士が協議できる場をつくる（後押しする）ための支援があってもいいのではないか。ある程度の人数が集まれば、準自治区といて認める例があってもいいのでは。自治区をつくることや役員になるのは嫌がるが、サークルの一員になるのは嫌がらないのではないか。
- 自治区が「ない」エリアと「入れない」エリアと2種類ある。自治区のかたちをすべてやろうとすると難しい。行政として最低限のしてほしいことを示すことで自治区が生まれやすくなるのでは。自治区としてすべきことについて、区長会に出ることで必須とするのかどうかは個人の判断では難しい。
- 日本人の気質として「どっちでもいい」は「しない方向」になる。ダウングレードではなく、自治会をつくることでアップグレードの視点にしていかなければ。
- 自治区をつくる時に団体維持を目的とするのではなく、課題解決を目的としてはどうか。課題が解決したら解消してもよい。今は違いを認め合う社会なので、つくりやすく解消もしやすいかたちがこれからの自治区に必要なのではないか。目的に応じて組織が変わるのが今の時代には合う。それに応じてまちづくりのお助け隊として当日手伝う人をたくさんリストにしておく。またその形を認めてもらう高齢者の柔軟性も必要。（例：仮面ライダー→ワンピース→鬼滅の刃）
- 生まれてから成長して解消するプロセスは大事。自治会は延命に次ぐ延命の組織。結成や解消がしやすい柔軟性は大事。有野台（神戸市）のニュータウンでは第一世代が夏祭りを30年継続していたが、第二世代が解消してマルシェにした。転入者の新しい視点を活かすいい機会になるのではないか。
- 自治区は自治の会であって行政が「つくらせる」ものではないので「その設立や会則について行政は一切関知しない」というスタンスが地方自治体の標準姿勢。しかし一方で「自治会加入促進条例」みたいなものが成立している地方自治体もあるのは、自治会が行政の下部組織的役割を担ってしまっていることの証左でもある。行政サービスをきちんと住民の皆さんに行き届くようにするために、そういう自治の会を地域のポータルにするのは、そもそもスジが違うのでは。杉森さんが「自治会があると行政が楽」というのは本音だとは思いますが、役所のダブルスタンダードにも感じられる。「自治会を作ってから来て下さい」というならそういうルールをきちんとこしらえるべきでは。
- 役所がつくらせた団体は最後に団体の構成員が「役所がつくらせたのだから、役所が支えるべきだ」という思考になる。今、役所がつくらせた団体の意識改革（アップグレード）の取組みをしている。各自治区にコンサルを一人ずついれている。地域運営組織で当時は先進的だったが、現在は弊害化している。
- 組織はなぜ必要なのか。1つは構成員が変わっても組織が残っていくから。また中年男性が地域活動に出ていくには理由が要る。
- 地域には横一線にいたくて中心になりたくない人が多い。そんななかで必要最小限のことを話し合う手伝いができないか。横並びに地域のつながりをつくろうとしているなかで、つながるための何か（きっかけ）をサポートする。その話し合いの結果グループができてもいいし、課題解決のみで終わってもよいが、議論をしたことで暮らしやすくなるきっかけにはなる。それが未結成地域にもあるとよい。

- 旧態依然とした自治体の状態からリーダーの印象を悪くしている。アドホック（特定の目的のための）なリーダーのいないネットワーク型組織（DAO：分散型自律組織に近い）が必要ではないか。未結成エリアで、リーダーや役員を置かない、必要な場面で相互協力する関係性づくりの支援ができないか。長期的に見て役場が今のままの行政サービスを維持することは難しい。今のレベルのサービスを維持するのが難しいなかで、役場が向き合う相手の数が増えていく未来は描きにくい。
- 県外のある地域ではNPOを作って、自治会で難しくなったことを有償で担う仕組みをつくりはじめている。その場所に合ったものをつくっていかないといけない。未結成のところは、ミニマムなところにチャレンジできるのではないか。それを基に近隣住民の協力のつながりができればいい。

③ その他

- 未結成地域をどう見立て、次年度以降、どんな支援ができるかを提案としてまとめたい。

令和4年度 第4回玉城町コミュニティのあり方研究会 議事録

開催日時：令和6年2月2日（金）10:00～12:00

開催方法：WEB 会議システム「Zoom」を使ったオンライン開催

参加：浅見雅之氏、池山敦氏、石丸隆彦氏、伊藤純子氏、春日俊夫氏、名取良樹氏、橋本大樹氏（50音順）

オブザーバー：皇学館大学実習生1名

①

今年度のふり返り

● 第1回（8/10）

- 自治区加入率に関する報告と議論。新しい住宅地や集合住宅に住む人の未加入率が高く、地域や自治区によって加入率に大きな差がある。自治区運営の課題と未来の見通しについても話し合った。
- 地域コミュニティ活動の支援策については、資金的支援、専門家による助言、公共施設の利用、広報・周知支援、表彰等が議論された。
- 全体を通して、玉城町の自治区加入率とその背景、コミュニティ活動の課題と支援策が主な焦点だった。

● 第2回

- 議論の中心になったのは「自治区への加入の必要性」。加入することの利点を理解し、それをどう伝えるかが重要であること、大規模災害発生時の対応や未加入者への対応、加入へ少しの「強制」の必要性などについて話し合った。
- 緊急時だけでなく、日常生活における自治区との関連性について、様々な地域のニーズと人口統計（人口減少）を考慮して議論。最低限の保障と“プレミアム会員”のような異なるモデルの有無について検討。
- 未加入世帯の自治区への加入促進のための具体的な戦略案について。
- 議論された選択案の中から1つを実施して、第3回目で検討する。

● 第3回

- 自治区のないエリアに居住する3世帯に対してインタビュー調査を実施し、その結果を報告。課題や自治区未設定エリアでの自治区設立の実現性や自治区の存在が住民にもたらすメリット、地域コミュニティの形成についての意見交換が行われた。

● 自治区未結成エリア住民へのインタビュー調査概要

〈ケース1（地域とのつながりがある方）〉

- 近所のつながりはあるが集まる機会や助け合いの必要は感じていない。
- 行政情報は広報紙や公式LINEで受け取っており、小学校が近いので防災・防犯に関する不安は少ない。
- 開発業者の現場事務所が地域の困りごとの相談窓口となっている。自治区設立には抵抗感があり、必要性を感じない。設立には役場の支援が必要。

〈ケース2（土地を購入したがまだ転居していない方）〉

- 地域の情報を求めている。

- インタビュー時まで「自治区がないこと」を知らなかった。
〈ケース3（転居から1年程度、地域とのつながりがうすい方）〉
- 役場から「自治区に入れない」と言われた。
- 保育園では既存のママ友コミュニティに入りにくい。
- 広報紙を受け取っておらず、近隣の情報が不足している。
- 自治会は自分たちで設立する必要は感じていない。加入することが可能であれば加入したい。

● **以上をふまえた今後の施策の提案**

ア) 地域情報へのアクセス強化

- 自治会未加入者には現状として情報が届きにくい。回覧板は届かないし、WEBまでわざわざ情報を得にくい。
- 新入居者に向けた情報冊子の提供（改善）や公式LINEなどデジタルツールを活用した情報共有システムの充実を図る。（既存充実+新支援策）

イ) 地域における話し合いの支援

- 自治区に未加入の住宅地ではゴミの分別、未回収のゴミの対応、草刈りなど地域の話合いが今後必要になることが予想されるが、自分から手を挙げて話し合いを切り出しにくい雰囲気がある。
- 地域における生活上の問題点、地域空間の共同管理（ゴミ集積場など）について、話し合いの必要がある場合に地域からの申し出、または町からの支援により専門的人材（ファシリテーター）を派遣し、地域課題解決型ワークショップを実施する。（新支援策〈人的〉）
- 旧来の自治区からも相談があれば専門的人材を派遣する。

ウ) 自治区の役割とメリットの啓蒙

- 「自治区があったら入っていた」「自治区に入りたかったけど入れなかった」という人の背中を押していく。
- 自治区への参加意欲を高めるために自治区の役割や地域における重要性、参加することのメリットをさらに広報する。自治区加入をためらう住民に対するサポート体制の充実。（既存事業+新支援策〈人的〉）

エ) 住民主導のプロジェクト支援

- 「つながるプロジェクト」で実施してきたような地域の課題解決の活動を住民自身が企画・運営できるようなサポート体制を設ける。小規模な補助金、専門家によるアドバイス提供など実行に移すための支援を行う。（新支援策）

オ) 多世代交流の促進

- 年齢層が異なる住民同士が交流できるイベントや活動の企画、子どもから高齢者までが参加できるまちあるきやスポーツイベント、文化活動を通じて世代間の理解と協力を深める。（つながるプロジェクトの継続、特命係）
- これまで子ども対象のまちあるきを実施してきたが、大人にも新たな発見がある。「まちあるき」は可能性があるのでは。

〈具体案〉

- ア) 新長更地区における除草やゴミ捨て場の管理に関する話し合いの支援を行う。

解決すべき話し合いができない状態の地域の背中を押す。

- イ) 町の発信する情報を公式 WEB に掲載したうえで公式 LINE と連携させ、プッシュで手元に届くようにする。
- ウ) イベント情報がまったく届かない住宅がたくさんある。イベント情報などを未結成地区に届くようにする。その際に公式 LINE 等に誘導。またイベント開催時にも公式 LINE への誘導を行う。

〈その他〉

- 現状の住民登録時の配布物（地域情報に関するもの）
 - 自治区加入のリーフレット（転居する地区の自治区の連絡先を記載）
→加入の有無に限らず、区長に必ず一報を入れるように伝えている
 - 防災行政無線申込の案内
→強く拒否をされない場合以外、必ず渡すようにしている
 - ゴミ収集カレンダー
 - 自治区に所属しない方には広報紙を郵送
- ※ 情報を発信する手段として公式 LINE（約 3000 人登録）と「玉城町すぐメール」（登録人数は少ない）の 2 種類があるが、連動していない。公式 LINE はコロナワクチンの予約をきっかけにスタートしたので登録数が一気に増えた。その後防災情報無線の更新時期に「すぐメール」を開始。すぐメールは週 2 回程度発信。発信情報としてはすぐメールの方が多い。
→住民に発信する情報は「すぐメール」に一本化した方がいいのでは。防災、子育てなど希望のジャンルを選び、選んだ情報を受け取れるような仕組みをつくっては。

② 意見交換

- 住民はインフォーマルな情報を求めている。地域のグループの集まり、廃品回収、近所の神社のお祭りなど町が公式で発信するまではいかないが情報。それらをどこまで発信していくか。またそれを町が発信するかどうかの線引きも難しい。町がするよりも第三者がやった方がいいかもしれない。地域包括ケアでインフォーマルな支援の重要性がいわれているが、それを地域のなかでどう共有して、どう育てていくか。
- 橋本氏の地域の花火大会では、公園に大きな看板をつくって周知し、300 人くらいが集まる。
- 神戸市の有野台は広報配布時に地域の新聞一緒に全戸配布していた。
- 社会インフラとして地域 SNS のような地域のプラットフォームをつくるのはいいのでは。
- 東灘区深江では LINE のオープンチャットを活用して防災の取組みのお知らせをしている。
- 以前、玉城町にもネットの掲示板があったが、誹謗中傷などのトラブルがあって閉鎖した。
- 住民が「祭をやるから周知してほしい」という要望を役場に持ち込んだ時に LINE で展開してもらえるのか。
→広報紙と同様に共催、後援、協力など町の関わり方によってグラデーションがあ

る。役場としては情報の信頼性を担保したい。

- 知りたい情報としてお店や遊ぶ場所の情報もあるが「一緒に活動できるグループの活動」「どこでどんな人がグループをつくり活動しているのか」という情報を求めている。
- 子どもと遊びに行くのは遊び場だけに限らない。玉城の伝統的な行事に岩風呂、獅子舞などがあるが、地域の行事の情報があると子育て世代にも役立つのでは。自治区に加入していても身近な地区の情報は伝わるが、他地区の情報は分からない。閉ざされている情報がうまく還流するようになるといいのでは。
- インタビュー調査に協力してくれた人は地域に関心があり、ある程度答えられる力量がある人である。このままにしておくのはもったいない。3人を中心+ α で集めて話し合いをもってもいいのではないか。グループインタビューでは、人数が集まると色々な意見が引き出され、話し合いの質が高まったり、まとまったりする。調査という名目で関心のある方を集め、横につながるサポートをしてもいいのでは。転入者には玉城を客観的に見られるという強みもある。既存の住民の意見も大事だが新しい視点も大事。玉城の中の人気がつかない強みや問題解決方法を持っている場合がある。
- (役場より)新しい自治区をつくるよりも自治区の加入促進をしてきた。ただ加入促進が通用しない例もある。入れない人が持続可能な何かをしないといけない。しかしそれをする事で加入促進が進まないことも望まない(例:加入しなくても情報が届くなら加入しない人が増えるなど)。バランスが難しい。
- 玉城の中の自治区の未加入世帯は「1軒だけ入っていない」よりも「かたまりで入っていない(入るすべがない)」状況が多いのではないかと。
→確かにその例が多い。例外的に現状で若手の区長が改革を進める中で地域の長老が抜けてしまった事例もある。農地の開発が進むなかでどこの自治会にも受け入れてもらえないエリアも多い。
- 「加入できるが入らない人」と「入りたいけど入れなかった人」がいる。しかし後者も新しく自治会をつくる強い思いはない。後者をつなぐネットワークを考える必要がある。後者もつながりを求めているわけではなく、話し合いやルールの実践性は感じている。大々的に「自治会を設立しよう」と働きかけるのではなく、「ゴミ集積所の管理は必要ですよ」と下から働きかけていく。まずはネットワークをつくり、つながりレベルを上げていく。「加入できるが入らない人」「入りたいけど入れなかった人(しかし自治会設立までの思いはない)」の両方に話し合い支援が必要ではないか。
- ゴミ集積所に関しては開発の条件に入れている。開発した土地でゴミ集積所をつくるため、既存の自治区のゴミ捨て場を使うことはない。リサイクルステーションも役場に要請すれば建ててもらえる。そうすることでより既存の自治区との溝が深まっていく。
- 準自治区としてグループを作り、それをネットワークでつなぐのが有効では。
- 活動助成金として「玉城町民が少人数(例:5人以上など)集まったら1人につき〇円出します」というような仕組みをつくっては。既存の自治区も利用できる。人がたくさん集まるほど助成金が増える。利用するグループは年に1回集まる機会をつくる。自治区が行政の執行機関ではないという前提は保ちつつ、加入促進をする場合、何かをするためだけでなく組織の維持のために助成を出し、その代わりに年に

数回集まってもらうことでつながりや啓蒙の機会とするのはどうか。

- 玉城町は自治区交付金が年間 800 万、広報紙等を配布する役割に対する予算が 800 万あり、合計 1,600 万ある。それが自治区の規模に応じて交付されている。他に地域のつながりを創出する取組に対する活動助成金もある。
→自治区に所属していない人が不当だと言いだしたらどうするか。
→自治区の構成要件は特にない。仮に 2 人でつくっても今の制度なら対応できる。
- 自治区が「おじいちゃんたちのアナログで、改革が必要な団体」だと思われているところに問題がある。そもそも自治会のあらまは民主的な団体として作られたやや左っぽい団体。また旧農村は自民党の票源になったりもしている。一方都会の自治体では共産党系のところもある。いまは自治会を十把一絡げに語っているが、イメージは“右寄りの自民党の票源”など旧態依然としたものになっている。そうではなくて、近隣のゴミ集積所の管理をするグループをつくったらそれは自治会なのではないか。「自治会」ではなく「住民グループ」と名前を変えてはどうか。目的別に「ゴミ集積所管理グループ」「街灯管理グループ」などをつくってはどうか。今何が必要かを話しあい、それに対処するためのグループをつくる。情報共有の仕組み、集金の仕組みをつくり、町としてはそのシステムづくりに注力する。
- 既存の自治区ができるところはやってもらった方がいい。そのために自治区の助成金も出ている。住民グループは、広報は配らないが街灯の管理は自分たちでする、など。役場はそれぞれの組織に対してある程度つながりをもっておく。今の若い人は昔ほど自治会に共感を持てなくなっている。
- そもそも組織にする必要があるのか。つながり促進でいいのではないか。組織をつくることを目的とすると、つくられている感が強い。「ゴミ捨て場の管理をしないといけないから、みんなでつながっておきませんか」という働きかけがよいのでは。何か重大なできごとが生まれたときにグループにするか、組織にするかを検討する。お金を集金するなど、大きなお金が動くときには組織が必要になる。
- そもそもなぜ自治区にお金を出すのか。入っていない人のところには還元されていないことは問題ではないか。税金を使ったサービスが隅々まで行き届いていないことに違和感がある。
- 地域の人たちの“かたまり”のあり様はさまざまにあるのではないか。「既存の自治区に入る・入らない」「新規の自治区をつくる・つくらない」「自治区でない住民同士のつながりをつくる・つくらない」などの選択肢。役場がそこにアプローチすればその地区の住民のほぼ全体にアクセスでき、総意も得られるというような“かたまり”を作っていくには、話し合いの支援が必要。住民自身が自分からは言えない、自分が中心になって集めようと思えない。
- 自治区でない場合は話し合いの支援も難しい。誰に声をかけるか。自治会の支援は簡単で、加入者に声をかけてもらえばいい。自治区でない場合は、役場が対象エリアに声をかけるかたちになるのか。「自治区作ります」では誰も来ない。
- 手を挙げた地域に話し合いを支援するワークショップを行う。既存の自治区も対象。しかし未結成のエリアからは手が挙がらない。そこでゴミ集積所の課題などを伝え「地域のみなさんで似たようなお困りごとないですか？」というテーマベースのアプローチはどうか。
- マイナスをゼロに戻すために集まるのは難しいので、ゼロをプラスにする発想にするとよい。みんなで集まると年間 1 万円の助成が出るから、そのお金で掃除用

具を買いましょう、というような。

- 住民はお金を欲しいと思っていないのではないか。やりたいことがなければ、お金が必要だという議論もないので、マイナス→ゼロの議論でいくしかないのでは。
- ゴミ集積所の掃除をしてくれた人に給料を出すような仕組みはどうか。しかしグループがないと、最初から外注になる。そのための集金の仕組みは必要になるが。グループにしてリーダーを決める、町との折衝を担う役割を担うことには抵抗のある住民が多い。
- お金とは切り離れた方がいいのではないかと。既存の自治区でも若い人はお金で面倒なことを避けられるなら、お金で解決しようとする人も多い。
- 外注するのも自分たちですることも結局は全て「自己決定」。つながりは大切だが、生活者としては生活の課題が解決されることが重要。決めることができるお手伝いをする必要があるとされている。
- 今の議論は新しい住宅地の話題が中心。開発業者も議論の中に巻き込む必要があるのではないかと。箱だけつくって課題解決は住民任せなのはどうか。住んでいる人にとって利害関係が強いのは開発業者と役場のどちらか。役場から声をかけると、開発業者から声をかけるのとどちらが話し合いの場に出やすくなるのか。
- 大和ハウスが過去につくったニュータウンの再生に取り組んでいる。コミュニティづくりにも関わるビジョンを持つ開発業者も増えている。しかし自分たちが開発したエリア以上には話が進まないで、それを越えるには役場が必要。またいつまでも支援はできないから、期限がある。開発業者の意見も聞いてみたい。ニュータウン開発ほど大規模にやる業者はそこまでの意識があるが、玉城町で5~10軒単位の開発業者では形だけのものになることも懸念される。つながりづくりまで業者任せにすることは難しいが、初期段階に業者も一定の責任や役割を負う必要がある。
- 地域の自己決定を引き出すための話し合いの支援が必要。決めるのは住民自身である。

③ 委員からひとこと

- 石丸氏
自治会の加入促進のテーマについて既存の自治区、新しい住宅のそれぞれの切り口の難しさを感じた。相手によってアプローチが変わる。勉強する機会になった。
- 橋本氏
楽しいことから地域づくりをはじめたい。とっかかりはみんなでお茶を飲んだりすることから始めたい。つながりをコーディネートする第三者が求められている。
- 名取氏
地域活性化起業人として行政サイドの立場も持っているが、提供するルールを検討する必要があると感じた。役場としては69区の自治区を増やしていこうと思っていないという意識があるなかでフレーム(枠組み)グループを提供していこうとする議論は方向が違っている。どういうルールを促進していくのが重要。
- 伊藤氏
すぐ答えの出る議論ではないが、議論が右往左往しても、「誰の利益のために」という研究会の姿勢として大事にしているものの軸がぶれないのはよい。行政的な視点だと「あるべき姿」を地域に押し付ける場合も多いが、丁寧に住民に寄り添お

うとしているところがすべての研究会を通じて感じられた。

- 浅見氏
「楽しいことから始めよう」が本質だが、それが連綿と続く地域の歴史のなかで「昔の楽しいこと」が今の荷物になっている。自らやっていることをきちんとアップデートする仕組みを内包する組織や個人、書き換え可能なルールを内部に持っている人たちの集まりが長持ちするのではないか。これからも掘り下げて考えていきたい。
- 春日氏
地縁型コミュニティ、目的型コミュニティをどうつなげていくかが大事。今の建付けは自治区の組織運営に対して支援するというかたちになっているが、行政の支援は組織に対する支援より一つ一つの活動に対して支援していく必要があると考えた。
- 上村氏（オブザーバー）
どの地域にも共通する問題があることを学ぶ機会になった。自分自身も地域を発展させていく職につきたいので、このミーティングを将来に活かしていきたい。
- 杉森氏（役場）
1年間ありがとうございました。何のための、誰のための事業か考え直す機会になった。3年間を通して今までに玉城町ではなかった取組みが生まれ、住民の意識も少しずつ変わりつつある。小さくても続けていくべきだと感じた。
- 池山氏
既存の自治区も、自治区がない住民に対しても住民の自己決定をどう支援するか。それがうまくいっていないことが改めてよく分かった。住民の自己決定をいかに支援していくかが核心だと感じた。今後も議論の場は続けていきたい。

度数分布表

記録

出力の作成日付	06-MAR-2024 09:35:12	
コメント		
入力	データ	/Users/ikeyamaatsushi/ Dropbox/01 皇學館 /R04/R04TMK/まちづく りアンケート/アンケート 集計/2022野篠.sav
	アクティブ データセット	DataSet1
	フィルタ	<なし>
	重み付け	<なし>
	分割ファイル	<なし>
	作業データファイル内の行数	55
欠損値の取り扱い	欠損の定義	ユーザー定義欠損値は欠損 値として処理されます。
	使用されたケース	統計量は、有効なデータの すべてのケースに基づいて います。
シンタックス	<pre> FREQUENCIES VARIABLES=Q01 Q02 Q03 Q04 Q0501 Q0502 Q0503 Q0504 Q0505 Q506 Q0507 Q0508 Q0509 Q0510 Q0511 Q0512 Q0513 Q0514 Q0601 Q0602 Q0603 Q0604 Q0605 Q0606 Q0607 Q0608 Q0609 Q0610 Q0611 Q0612 Q0613 Q0614 Q0615 Q0616 Q0617 Q0618 Q0619 Q0620 Q0621 Q0622 Q0623 Q0624 Q0701 Q0702 Q08 Q09 Q1001 Q1002 Q1003 Q1004 Q1005 Q1006 Q1007 Q1008 Q1009 Q1010 Q1011 Q1012 Q1013 Q1014 Q1015 Q1016 Q1017 Q1018 Q1019 Q1020 Q1021 Q1101 Q1102 Q1103 Q1104 Q1105 Q1106 Q1107 Q1108 Q1109 Q1110 Q1111 Q1112 Q1113 Q1114 Q1115 Q1116 Q1117 Q1118 Q1201 Q1202 Q1301 Q1302 Q1401 Q1402 Q1501 Q1601 /ORDER=ANALYSIS. </pre>	

記録

リソース	プロセッサ時間	00:00:00.13
	経過時間	00:00:00.00

統計量

		性別	年齢	同居人数	居住地域	農業	林業	漁業
度数	有効	54	54	54	52	3	0	0
	欠損値	1	1	1	3	52	55	55

統計量

		自営業	会社員	公務員・団体職員	パート・アルバイト	専業主婦・主夫
度数	有効	6	13	2	9	3
	欠損値	49	42	53	46	52

統計量

		中学生	高校生	大学生・短大・専門学校	無職	その他	その他・自由記載
度数	有効	2	1	0	13	5	55
	欠損値	53	54	55	42	50	0

&[ページ タイトル]

統計量

		困りごと・食事	庭作業等	農地山林の維持 管理	日常的な相談	看病や世話
度数	有効	3	9	17	0	2
	欠損値	52	46	38	55	53

統計量

		健康面の不安	緊急時の相談先	災害への備え	運転	移動手段
度数	有効	13	0	5	0	1
	欠損値	42	55	50	55	54

統計量

		生活道路など環 境整備	買い物	金融機関	福祉サービス	地域医療体制	子育て環境
度数	有効	5	4	0	1	2	1
	欠損値	50	51	55	54	53	54

統計量

		集まれる場所	通学が不便	小学校が少人数	進学に関するこ と	結婚に関するこ と
度数	有効	2	4	0	1	2
	欠損値	53	51	55	54	53

&[ページ タイトル]

統計量

		雇用	その他	その他自由記載	主な交通手段	その他自由記載
度数	有効	7	10	55	54	55
	欠損値	48	45	0	1	0

統計量

		地域活動への興味	地域活動への参加	やりがいがあつて楽しいから	誰かの役に立てるから	知り合いや仲間が増えるから
度数	有効	55	55	5	12	7
	欠損値	0	0	50	43	48

統計量

		時間的に余裕があるから	義務だと思うから	参加しないと周りの目が気になるから	地区の人との付き合いを大事にしたいから	人に頼まれたから
度数	有効	5	8	1	18	3
	欠損値	50	47	54	37	52

統計量

		その他	その他自由記載	仕事・学業等で時間的に余裕がない	お金がかかりそうだから	人間関係が面倒そうだから
度数	有効	2	55	9	0	3
	欠損値	53	0	46	55	52

統計量

		知り合いがい ないから	体力がないから	自分では役に 立たないと思 うから	家族が参加し ているから	興味がないから
度数	有効	2	4	0	4	3
	欠損値	53	51	55	51	52

統計量

		意見を聞いて もらえないから	地域活動に参 加する意義を 感じないから	その他	重要度・高齢 者の健康と長 生きに関する こと	満足度・高齢 者の健康と長 生きに関する こと
度数	有効	1	5	1	54	53
	欠損値	54	50	54	1	2

統計量

		重要度・子育て 支援等、子ども に関するこ とについて	満足度・子育て 支援等、子ども に関するこ とについて	重要度・自分 たちの住んで いる地区の環 境について	満足度・自分 たちの住んで いる地区の環 境について	重要度・生き がい、趣味等 の活動につ いて
度数	有効	53	51	54	54	54
	欠損値	2	4	1	1	1

統計量

		満足度・生き がい、趣味等 の活動につ いて	重要度・空き 家、耕作放棄 地等につ いて	満足度・空き 家、耕作放棄 地等につ いて	重要度・防災 、防犯、交通 安全等「安全 ・安心」に関 わるこ とにつ いて	満足度・防災 、防犯、交通 安全等「安全 ・安心」に関 わるこ とにつ いて
度数	有効	54	53	53	54	53
	欠損値	1	2	2	1	2

統計量

		重要度・地区でのコミュニケーションについて	満足度・地区でのコミュニケーションについて	重要度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて	満足度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて	重要度・地区の伝統を守り、伝えることについて
度数	有効	54	53	54	54	54
	欠損値	1	2	1	1	1

統計量

		満足度・地区の伝統を守り、伝えることについて	あなたはこの地区に今後も住み続けたいと思いますか？	その理由自由記載	あなたは自分の子どもにもこの地区に住んでほしいと思いますか？（子どもがいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください）	その理由自由記載
度数	有効	54	52	55	53	55
	欠損値	1	3	0	2	0

統計量

		あなたはこの地区に愛着がありますか？	その理由自由記載	玉城町が下外城田地区の未来を考える事業を昨年度から行っていることを知っていました	地区での暮らしや地域活動・事業等についてお感じのことやご意見ご提案を自由に書き
度数	有効	54	55	0	55
	欠損値	1	0	55	0

度数テーブル

性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	女性	26	47.3	48.1	48.1
	男性	28	50.9	51.9	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

&[ページ タイトル]

年齢

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	10歳代	3	5.5	5.6	5.6
	20歳代	2	3.6	3.7	9.3
	30歳代	4	7.3	7.4	16.7
	40歳代	4	7.3	7.4	24.1
	50歳代	9	16.4	16.7	40.7
	60歳代	17	30.9	31.5	72.2
	70歳代	12	21.8	22.2	94.4
	80歳代以上	3	5.5	5.6	100.0
	合計		54	98.2	100.0
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

同居人数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1人	5	9.1	9.3	9.3
	2人	17	30.9	31.5	40.7
	3人	16	29.1	29.6	70.4
	4人	13	23.6	24.1	94.4
	5人以上	3	5.5	5.6	100.0
	合計		54	98.2	100.0
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

居住地域

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	岡村	52	94.5	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	3	5.5		
合計		55	100.0		

農業

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	52	94.5		
合計		55	100.0		

林業

		度数	パーセント
欠損値	システム欠損値	55	100.0

漁業

	度数	パーセント
有効 システム欠損値	55	100.0

自営業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	10.9	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	49	89.1		
合計	55	100.0		

会社員

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	13	23.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	42	76.4		
合計	55	100.0		

公務員・団体職員

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	53	96.4		
合計	55	100.0		

パート・アルバイト

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	9	16.4	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	46	83.6		
合計	55	100.0		

専業主婦・主夫

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	52	94.5		
合計	55	100.0		

中学生

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	53	96.4		
合計	55	100.0		

&[ページ タイトル]

高校生

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

大学生・短大・専門学校

		度数	パーセント
欠損値	システム欠損値	55	100.0

無職

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	23.6	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	42	76.4		
合計		55	100.0		

その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	50	90.9		
合計		55	100.0		

困りごと・食事

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	52	94.5		
合計		55	100.0		

庭作業等

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	9	16.4	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	46	83.6		
合計		55	100.0		

農地山林の維持管理

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	17	30.9	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	38	69.1		
合計		55	100.0		

日常的な相談

	度数	パーセント
欠損値 システム欠損値	55	100.0

看病や世話

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	53	96.4		
合計	55	100.0		

健康面の不安

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	13	23.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	42	76.4		
合計	55	100.0		

緊急時の相談先

	度数	パーセント
欠損値 システム欠損値	55	100.0

災害への備え

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	50	90.9		
合計	55	100.0		

運転

	度数	パーセント
欠損値 システム欠損値	55	100.0

移動手段

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	54	98.2		
合計	55	100.0		

生活道路など環境整備

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	50	90.9		
合計	55	100.0		

買い物

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	4	7.3	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	51	92.7		
合計		55	100.0		

金融機関

		度数	パーセント
欠損値	システム欠損値	55	100.0

福祉サービス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

地域医療体制

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	53	96.4		
合計		55	100.0		

子育て環境

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

集まれる場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	53	96.4		
合計		55	100.0		

通学が不便

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	4	7.3	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	51	92.7		
合計		55	100.0		

小学校が少人数

	度数	パーセント
有効 システム欠損値	55	100.0

進学に関すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	54	98.2		
合計	55	100.0		

結婚に関すること

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	53	96.4		
合計	55	100.0		

雇用

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	7	12.7	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	48	87.3		
合計	55	100.0		

その他

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	10	18.2	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	45	81.8		
合計	55	100.0		

主な交通手段

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 自動車	50	90.9	92.6	92.6
自転車	2	3.6	3.7	96.3
徒歩	2	3.6	3.7	100.0
合計	54	98.2	100.0	
欠損値 システム欠損値	1	1.8		
合計	55	100.0		

その他自由記載

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	55	100.0	100.0	100.0

地域活動への興味

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	興味あり	35	63.6	63.6	63.6
	興味なし	20	36.4	36.4	100.0
	合計	55	100.0	100.0	

地域活動への参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	参加している	16	29.1	29.1	29.1
	どちらかというに参加している	15	27.3	27.3	56.4
	どちらかというに参加していない	10	18.2	18.2	74.5
	参加していない	14	25.5	25.5	100.0
	合計	55	100.0	100.0	

やりがいがあるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	50	90.9		
合計		55	100.0		

誰かの役に立てるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	12	21.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	43	78.2		
合計		55	100.0		

知り合いや仲間が増えるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	7	12.7	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	48	87.3		
合計		55	100.0		

時間的に余裕があるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	50	90.9		
合計		55	100.0		

義務だと思うから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	8	14.5	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	47	85.5		
合計		55	100.0		

参加しないと周りの目が気になるから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

地区の人との付き合いを大事にしたいから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	18	32.7	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	37	67.3		
合計		55	100.0		

人に頼まれたから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	52	94.5		
合計		55	100.0		

その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	53	96.4		
合計		55	100.0		

その他自由記載

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効		53	96.4	96.4	96.4
	休日があうため	1	1.8	1.8	98.2
	持ち回りの役もある	1	1.8	1.8	100.0
合計		55	100.0	100.0	

仕事・学業等で時間的に余裕がない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	9	16.4	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	46	83.6		
合計		55	100.0		

お金がかかりそうだから

	度数	パーセント
有効 システム欠損値	55	100.0

人間関係が面倒そうだから

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	52	94.5		
合計	55	100.0		

知り合いがいないから

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	2	3.6	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	53	96.4		
合計	55	100.0		

体力がないから

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	4	7.3	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	51	92.7		
合計	55	100.0		

自分では役に立たないと思うから

	度数	パーセント
欠損値 システム欠損値	55	100.0

家族が参加しているから

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	4	7.3	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	51	92.7		
合計	55	100.0		

興味がないから

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	3	5.5	100.0	100.0
欠損値 システム欠損値	52	94.5		
合計	55	100.0		

意見を聞いてもらえないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

地域活動に参加する意義を感じないから

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	9.1	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	50	90.9		
合計		55	100.0		

その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1	1.8	100.0	100.0
欠損値	システム欠損値	54	98.2		
合計		55	100.0		

重要度・高齢者の健康と長生きに関すること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	52	94.5	96.3	96.3
	わからない	2	3.6	3.7	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・高齢者の健康と長生きに関すること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	10	18.2	18.9	18.9
	満足ではない	13	23.6	24.5	43.4
	わからない	30	54.5	56.6	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

重要度・子育て支援等、子どもに関することについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	47	85.5	88.7	88.7
	わからない	6	10.9	11.3	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

満足度・子育て支援等、子どもに関することについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	10	18.2	19.6	19.6
	満足ではない	12	21.8	23.5	43.1
	わからない	29	52.7	56.9	100.0
	合計	51	92.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	7.3		
合計		55	100.0		

重要度・自分たちの住んでいる地区の環境について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	51	92.7	94.4	94.4
	その思わない	1	1.8	1.9	96.3
	わからない	2	3.6	3.7	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・自分たちの住んでいる地区の環境について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	19	34.5	35.2	35.2
	満足ではない	19	34.5	35.2	70.4
	わからない	16	29.1	29.6	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

重要度・生きがい、趣味等の活動について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	37	67.3	68.5	68.5
	その思わない	7	12.7	13.0	81.5
	わからない	10	18.2	18.5	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・生きがい、趣味等の活動について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	13	23.6	24.1	24.1
	満足ではない	14	25.5	25.9	50.0
	わからない	27	49.1	50.0	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

重要度・空き家、耕作放棄地等のことについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	44	80.0	83.0	83.0
	わからない	9	16.4	17.0	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

満足度・空き家、耕作放棄地等のことについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	5	9.1	9.4	9.4
	満足ではない	14	25.5	26.4	35.8
	わからない	34	61.8	64.2	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

重要度・防災、防犯、交通安全等「安全・安心」に関わることについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	51	92.7	94.4	94.4
	わからない	3	5.5	5.6	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・防災、防犯、交通安全等「安全・安心」に関わることについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	13	23.6	24.5	24.5
	満足ではない	16	29.1	30.2	54.7
	わからない	24	43.6	45.3	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

重要度・地区でのコミュニケーションについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	44	80.0	81.5	81.5
	その思わない	2	3.6	3.7	85.2
	わからない	8	14.5	14.8	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・地区でのコミュニケーションについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	18	32.7	34.0	34.0
	満足ではない	10	18.2	18.9	52.8
	わからない	25	45.5	47.2	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

重要度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	38	69.1	70.4	70.4
	その思わない	4	7.3	7.4	77.8
	わからない	12	21.8	22.2	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	9	16.4	16.7	16.7
	満足ではない	14	25.5	25.9	42.6
	わからない	31	56.4	57.4	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

重要度・地区の伝統を守り、伝えることについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	41	74.5	75.9	75.9
	その思わない	3	5.5	5.6	81.5
	わからない	10	18.2	18.5	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

満足度・地区の伝統を守り、伝えることについて

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	満足だ	15	27.3	27.8	27.8
	満足ではない	12	21.8	22.2	50.0
	わからない	27	49.1	50.0	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

あなたはこの地区に今後も住み続けたいと思いますか？

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	35	63.6	67.3	67.3
	その思わない	1	1.8	1.9	69.2
	わからない	16	29.1	30.8	100.0
	合計	52	94.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	5.5		
合計		55	100.0		

**あなたは自分の子どもにもこの地区に住んでほしいと思いますか？（子ども
がいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください）**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	25	45.5	47.2	47.2
	その思わない	2	3.6	3.8	50.9
	わからない	26	47.3	49.1	100.0
	合計	53	96.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	3.6		
合計		55	100.0		

&[ページ タイトル]

あなたはこの地区に愛着がありますか？

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思う	34	61.8	63.0	63.0
	その思わない	9	16.4	16.7	79.6
	わからない	11	20.0	20.4	100.0
	合計	54	98.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	1	1.8		
合計		55	100.0		

～みなさんの声をお聞かせください～

アンケートの当てはまる項目の数字ひとつに○を付けてお答えください。問は15まであります。「いくつでも」または「3つまで選んで」という場合には、その問の説明に従ってご回答ください。ご回答は統計的に処理し、個人を特定することは一切ございません。

(1) あなたについて教えてください

問01 あなたの性別を教えてください。

1. 女性 2. 男性 3. その他

問02 あなたの年齢を教えてください。

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳代以上

問03 ご家族について教えてください。ご同居のご家族はあなたを含め何人ですか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問04 あなたのお住まいはどの地区ですか？

1. 長更 2. 井倉 3. 世古 4. 門前 5. 坂本 6. 日向 7. 上玉川
8. 下玉川 9. 岡村 10. 平 11. 妙法寺 12. 中楽 13. 荒子
14. 久保 15. 伊勢団地 16. エバーグリーン玉城

問05 あなたのお仕事はどれですか？当てはまるものをいくつでもお答えください。

- | | | | | |
|-------------|--------------|-------------------|--------|--------|
| 1. 農業 | 2. 林業 | 3. 漁業 | 4. 自営業 | 5. 会社員 |
| 6. 公務員・団体職員 | 7. パート・アルバイト | 8. 専業主婦（主夫） | | |
| 9. 中学生 | 10. 高校生・高専生 | 11. 大学生・短大生・専門学校生 | | |
| 12. 無職 | 13. その他（ | | | ） |

問 07 日常の主な交通手段を教えてください。

- | | | | | |
|--------|-----------|---------|----------|--------|
| 1. 自動車 | 2. バイク・原付 | 3. 路線バス | 4. タクシー | 5. 自転車 |
| 6. 徒歩 | 7. 元気バス | 8. JR | 9. その他 (|) |

(2) 地域活動について教えてください。

※地域活動とは、地区の活動や共同作業、まちづくり活動や NPO、ボランティア等の活動、まつり、行事、イベント等全般を指します。

問 08 あなたは地域活動に関心がありますか？

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 09 あなたは地域活動に参加していますか？

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 参加している | 2. どちらかというに参加している |
| 3. どちらかというに参加していない | 4. 参加していない |

問 10 問 09 で答えた理由を 3 つまで 教えてください。

① 「参加している」「どちらかというに参加している」とご回答頂いた方

- | |
|------------------------|
| 1. やりがいがあるから楽しいから |
| 2. 誰かの役に立てるから |
| 3. 知り合いや仲間が増えるから |
| 4. 時間的に余裕があるから |
| 5. 義務だと思うから |
| 6. 参加しないと周りの目が気になるから |
| 7. 地区の人との付き合いを大事にしたいから |
| 8. 人に頼まれたから |
| 9. その他 () |

3 つまで
お答えください

② 「参加していない」「どちらかというに参加していない」とご回答頂いた方

1. 仕事・学業等で時間的に余裕がない
2. お金がかかりそうだから
3. 人間関係が面倒そうだから
4. 知り合いがいないから
5. 体力がないから
6. 自分では役に立たないと思うから
7. 家族が参加しているから
8. 興味がないから
9. 意見を聞いてもらえないから
10. 地域活動に参加する意義を感じないから
11. その他

3つまで
お答えください



(3) まちづくりの「大切さ」「満足度」について教えてください。

問11 次のテーマ・内容についてあなたがこれから先のまちづくりには「大切だ」と思うもの、そして地区の現状や取り組み、町の施策への「満足度」を教えてください。

① 高齢者の健康と長生きに関すること

(キーワード 健康づくり、買い物・通院等の支援、見守り、配食サービス等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

② 子育て支援等、子どもに関することについて

(キーワード 親同士の交流、子ども会、登下校の見守り等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

③ 自分たちの住んでいる地区の環境について

(キーワード 草刈り、側溝そうじ、公園・河川・集会所等の美化等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

④ 生きがい、趣味等の活動について

(キーワード 地区でのスポーツ活動(運動会等)、趣味の教室、サークル活動等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑤ 空き家、耕作放棄地等のことについて

(キーワード 維持管理、活用、持ち主や状況の把握、空き家バンク、あっせん等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑥ 防災、防犯、交通安全等「安全・安心」に関わることについて

(キーワード 地震、水害、火事、避難訓練、交通マナー等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑦ 地区でのコミュニケーションについて

(キーワード 地区での付き合い、回覧板、掲示板、広報誌等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑧ 地区の魅力を見つけ、世代や地区を越えて発信することについて

(キーワード 特産物、収穫体験、史跡、自然環境等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

⑨ 地区の伝統を守り、伝えることについて

(キーワード 祭り、祭礼、年中行事、伝統行事、芸能等)

大切だと思うか	1. そう思う	2. そう思わない	3. わからない
満足しているか	1. 満足だ	2. 満足ではない	3. わからない

(4) あなたは今後もこの地区に住み続けたいですか？

問 12 あなたはこの地区に今後も住み続けたいと思いますか？

1. そう思う 2. そう思わない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください (自由記載)

問 13 あなたは自分の子どもにもこの地区に住んでほしいと思いますか？ (子どもがいない方も「もし子どもがいたら」と考えてお答えください)

1. そう思う 2. 思わない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください (自由記載)

問 14 あなたはこの地区に愛着がありますか？

1. ある 2. ない 3. わからない

よろしければ、その理由をお聞かせください（自由記載）

問 15 地区での暮らしや地域活動・事業等についてお感じのことやご意見、ご提案を自由にお書きください。（自由記載）



アンケートは以上です。この度はお忙しいところ貴重な時間を割いてアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。アンケートの集計・分析結果について地域での報告会を予定しています。その節はよろしく願いいたします。

岡村地区の姿2024 令和5年度まちづくりアンケート結果報告

皇學館大学教育開発センター
池山敦
2024/3/25

1. 岡村地区における人口の現状（令和2年国勢調査より）

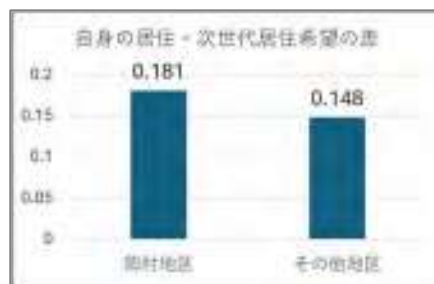


人口がゆるやかに減少し、高齢化率が上昇しています。困った時や災害時など、地域の助け合いの備えが必要になるかもしれません。



2. アンケート結果（抜粋）

困りごと・心配ごとでは、健康面への不安が少なく、皆さんお元気なようです。災害への備えへの不安は他地区より低い傾向ですが、ぜひ兜の緒を締め直し、備えていただきたいところです。



令和5年8月に岡村地区で実施させていただいたアンケートにつき、主にこれまで実施した町内他地区と比較を行っています。



地域活動への関心・参加については、他地区よりやや高い傾向です。今後も地区に住み続けることについて、子どもたち「にも」住み続けてほしい、というところになると少し不安の要素があるののかもしれませんがね。

※「自身が住み続けたい」と「子どもにも住み続けたい」との差を比較しています（ポイントで比較しています）



アンケートにご協力
ありがとうございました！

令和6年2月26日

皇學館大学教育開発センター准教授

池山敦

1. 今年度の議論の振り返り

(ア) 第1回研究会(8/10) 議論要旨

- ① 自治区加入率に関する報告と議論では、新しい住宅地や集合住宅に住む人の未加入率が高く、地域や自治区によって加入率に大きな差があることが確認された。特に長更、久保、松ヶ原地区の未加入率が非常に高い。自治区運営の課題と未来の見通しについても話し合われた。
- ② 地域コミュニティ活動の支援策については、資金的支援、専門家による助言、公共施設の利用、広報・周知支援、表彰等が提案、議論された。
- ③ 全体を通して、玉城町の自治区加入率とその背景、コミュニティ活動の課題と支援策が主な焦点であった。

(イ) 第2回研究会(10/6) 議論要旨

- ① 議論の中心となったのは、自治区への加入の必要性についてであった。加入することの利点を理解し、それをどう伝えるかが重要であること、大規模災害発生時の対応や未加入者への対応、加入への少しの「強制」の必要性などについて意見が交わされた。
- ② 緊急時だけでなく日常生活における自治区との関連性について、様々な地域のニーズと人口統計を考慮して議論された。また、基本会権とオプション権のような異なる加入モデルの可能性についても検討された。
- ③ 第二の議論点は、自治区への加入を促進するための具体的な戦略案に焦点を当てた。未加入世帯が多い地域の実態調査や賃貸住宅の管理者への働きかけ、未加入率の高い地域の区長への支援アプローチなどの案が提案された。
- ④ 最終的に、議論された戦略案の中から1つを選択し、実施後にその結果を次回の会議で検討することになった。

(ウ) 第3回研究会(1/22) 議論要旨

- ① 自治区未結成エリアに住む住民の生活とコミュニティに関するインタビュー調査結果が報告された。(詳細は下記)
- ② 自治区のないエリアに居住する3世帯に対して行われたインタビューでは、ゴミ出しや地域情報へのアクセス、近隣住民との関わりに関する課題が明らかになった。
- ③ 自治区の必要性に関する住民の意見は様々であり、自治区がないことがもたらす具体的な弊害や自治区を介した行政サービスの利用について討議された。
- ④ また、自治区未結成エリアでの自治区設立の現実性や、自治区の存在が住民にもたらすメリット、地域コミュニティの形成についての意見交換が行われた。行政の自治区設立に対する姿勢や自治区が存在しないエリアでの行政サービスの提供方法についても議論され、未結成地域に対する今後の支援策の提案が目標とされた。

2. 自治区未結成エリア住民へのインタビュー調査結果概要

(ア) ケース1

- ① 属性・家族構成：30代男性、家族は夫婦と子ども4人(小学2年生、保育園年長、年少、未満児)。自営業で夫婦共に自宅で働いている。
- ② 居住地と転居：長更地区のミニ開発地の戸建住宅に居住。この開発地は3期に分かれており、Aさ

んの家族は子育て世帯が多い2期に居住。令和元年に隣町の明和町から転居。

- ③ 地域とのつながり：自治区には未加入。近所とのつながりはあるが、集まる機会や助け合いの必要性は感じていない。
- ④ 地域の情報と防災・防犯：行政情報は広報誌や公式 LINE で受け取っており、小学校が近いため防災・防犯に対する不安は少ない。
- ⑤ 地域課題と自治区の必要性：現場事務所が地域の困りごとの相談窓口となっているが、自治区の設立には抵抗感があり、自治区の必要性を感じていない。住民主導での自治区設立は難しいと考えており、役場の支援が必要との意見。

(イ) ケース2

- ① 属性・家族構成：50代女性、夫婦のみ。現在は東京近県のマンションに居住しており、長更地区の3期住宅地を購入済みだが、まだ転居していない。
- ② 居住地と転居計画：玉城町に良い物件があったため購入。転居はマンションのリフォーム後で、夫の勤務地への通勤も考慮している。
- ③ 玉城町との関連：夫は津での居住経験があり、玉城町へのふるさと納税を通じて良い印象を持っている。妻は玉城町出身であるが、それだけが選択理由ではない。
- ④ 心配事と地域情報の必要性：田んぼの交差点の見通しの悪さや高齢になった際の移動の問題を懸念している。また、玉城町の情報や転入者への情報冊子の提供を望んでいる。
- ⑤ 地域との関わり：現在の居住地では自治会に加入し、地域行事に参加している。玉城町にも自治会があれば加入するが、農家中心の自治区では加入を躊躇する可能性がある。また、転居後は地域の活動に参加し、相談できる人を見つけたいと考えている。

(ウ) ケース3

- ① 属性・家族構成：30代女性、家族は夫婦と5歳、3歳の保育園児2人。夫婦共に勤務している。
- ② 居住地と転居年：佐田地区の小学校隣接のミニ開発地に居住。現在はその地区の唯一の入居者。令和4年に松阪市から転入。
- ③ 自治区・自治会：現在の住宅地には自治区がなく、転入時に役場から自治区に入れなかった。前住地ではアパートとして自治会に加入していた。
- ④ 地域とのつながり：近所に住民がおらず、保育園では既存のママ友コミュニティに入りにくい。玉城町内でのつながりがないため、何かあれば実家に相談する。
- ⑤ 地域の情報と自治会の必要性：広報誌は受け取っておらず、近隣の情報が不足している。インターネットで情報検索を行うが、LINEなどで情報が欲しいと考えている。自治区に加入することが可能であれば加入する意向。現時点では自治会を設立する必要性を感じていないが、今後入居者が増えればごみ当番の決定などが必要になるかもしれない。

3. 以上を踏まえた今後への施策の提案

- (ア) **地域情報へのアクセス強化**: 新入居者に向けた情報冊子の提供（改善）や、玉城町公式 LINE などデジタルツールを活用した情報共有システムの充実を図る。これにより、地域のイベントや防災情報、生活に役立つ情報が手軽に入手できるようにする（既存充実+新支援策）。
- (イ) **地域における話し合いの支援**: 地域における生活上の問題点や、地域空間の共同管理（ゴミ集積場など）につき、話し合いの必要性がある場合に地域からの申し出、または町からの提案により専門の人材による地域別課題解決型ワークショップを実施する（新支援策（人的））。
- (ウ) **自治区の役割とメリットの啓蒙**: 自治区への参加意欲を高めるために、自治区の役割や地域における重要性、参加することのメリットをさらに広報する。また、自治区加入をためらう住民に対するサポート体制を整備する（既存事業+新支援策（人的））。

(エ) **住民主導のプロジェクト支援**: 地域の課題解決や活動を住民自身が企画・運営できるようなサポート体制を設ける。小規模な補助金や専門家によるアドバイス提供など、実行に移すための支援を行う（新支援策）。

(オ) **多世代交流の促進**: 年齢層が異なる住民同士が交流できるイベントや活動の企画。子どもから高齢者までが参加できるまちあるきやスポーツイベント、文化活動などを通じて、世代間の理解と協力を深める（つながるプロジェクト継続、特命係）。

4. 具体案

(ア) 新長更地区における除草やゴミ捨て場の管理に関する話し合いの支援を行う。

(イ) 町の発信する地区に関する情報を公式 WEB に掲載した上で公式 LINE と連携させ、プッシュで手元に届くようにする。

(ウ) イベント情報などを未結成地区に届くようにより工夫する。その際に、公式 LINE などに誘導する。またイベント開催時にも公式 LINE への誘導を行う。 以上